

令和8年度

学習案内 (シラバス)



さいたま市立大宮西中学校

年	組	番	氏 名
---	---	---	-----

～ 目次 ～

・ 学習内容（シラバス）について	2
・ 大宮西中学校学校経営方針	3
・ 国語	6
・ 社会	9
・ 数学	12
・ 理科	15
・ 音楽	18
・ 美術	21
・ 保健体育	24
・ 技術・家庭	27
・ グローバル・スタディ	32
・ 特別支援学級	35
・ 学習について	37
・ 評価及び評定について	38

定期テスト日程

	1年 ・ 2年	3年
1学期期末テスト	6月29日（月）、30日（火）	
2学期中間テスト	10月 9日（金）	
2学期期末テスト	11月26日（木）、27日（金）	11月12日（木）、13日（金）
学年末テスト	2月25日（木）、26日（金）	2月 4日（木）、 5日（金）

さいたま市学力検査（3年）

第1回… 9月24日（木）、第2回… 11月 4日（水）、第3回… 1月 8日（金）

学習案内（シラバス）について

1 はじめに

この学習案内（シラバス）は、「確かな学力」（「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）を身に付けることを目指して作成されています。この冊子には、各教科の学習内容、評価の方法などを盛り込み、「本校でどのような学習をするのか」「どのように評価がなされているのか」がわかるようになっています。計画的に家庭学習を進めるためにも、大いに参考にしてください。

2 シラバスの見方

- ① いつ学習するかを示しています。
- ② 題材（教材）名や学習の内容を示しています。
- ③ 具体的な学習のねらいを示しています。
- ④ 授業の受け方と学習の進め方を示しています。

年間の授業計画と主な学習のねらい		
学期	学習内容（単元名）	主な学習のねらい
1 学 期	電流の流れ （電流回路）	・ 静電気のはたらきを知る。
	磁界のはたらき （磁界と電流）	・ 電流回路を組み立て、電流や電圧の値を測定できる。 ・ 回路での電流、電圧、抵抗の関係を理解する。
	動物の世界	・ 磁界と電流のはたらきを実験で確かめ、説明できる。 ・ 電流のはたらきを知る。（発電機、モーター）
評価の観点と方法		
※⑤ この部分に各観点をどのような方法で評価するか示しています。		

3 評価について

- ・ 目標がどの程度達成したか、その達成状況を見る評価（絶対評価）
- ・ 各教科の観点別評価（A・B・C）の総括 ⇔ 教科の評定（5・4・3・2・1）

観点別評価は3段階		評価は5段階							
A 十分満足する B おおむね満足できる C 努力を要する		5 十分満足できる状況のうち特に程度の高いもの 4 十分満足できる状況 3 おおむね満足できる状況 2 努力を要する状況 1 一層の努力を要する状況							
教科	観点別学習状況	評 価				評 定			
	観 点	1	2	3	学年	1	2	3	学年
理 科	知識・技能	A	A	B	A	5	3	2	3
	思考・判断・表現	A	B	C	B				
	主体的に学習に取り組む態度	A	C	C	B				

4 令和7年度授業時数について

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技・家	道徳	G・S	総合		特活	人 ^o □	拡充	合計
												STEAMS				
1年	140	105	140	105	45	45	105	70	35	157	24	(9)	35	9	25	1040
週	4	3	4	3	1.3	1.3	3	2	1	4.5	0.7		1	0.2	0.7	29.7
2年	140	105	105	140	35	35	105	70	35	157	53	(9)	35		10	1025
週	4	3	3	4	1	1	3	2	1	4.5	1.5		1		0.3	29.2
3年	105	140	140	140	35	35	105	35	35	157	53	(9)	35		10	1025
週	3	4	4	4	1	1	3	1	1	4.5	1.5		1		0.3	29.2

※「総合的な学習の時間」の中に「STEAMS TIME」9時間を含む

令和 8 年度 大宮西中学校学校経営方針

さいたま市立大宮西中学校校長 吉田 由美子

【基本理念】 ～ 教育は信頼と愛情の上に成立する ～

学校教育目標： 「創造する生徒（かしこく） 心豊かな生徒（ゆたかに）
鍛える生徒（たくましく）」 の育成
学校経営方針： 『あい』 と「志」をつなげる 教育活動の推進

1 目指す学校像

生徒・教職員一人ひとりの「志」と希望を支え、誰もが成長を実感できる笑顔と『あい』あふれる学校

- ・子どもたちが、自ら学びを更新し、自分の頭で考え、主体性をもって、学び合い・認め合い 成長する学校
- ・生徒が安全・安心して学び続ける居場所づくりと生徒の可能性を開花させる学校
- ・学校に携わるすべての人々の Well-being(幸せ)の実現に向けた、学校・家庭・地域の連携と協働する開かれた学校（コミュニティ・スクールとスクールサポートネットワークの一体的推進）
- ・教職員が、情熱とプロ意識をもち、互いに支え合い 「チーム大宮西中」として実践する活気ある学校

2 目指す生徒像

- 〈 創造する生徒（かしこく） 〉
 - ・共に学ぶ喜びを味わえる生徒
 - ・自分のよさを認め、さらに伸ばそうとする生徒
- 〈 心豊かな生徒（ゆたかに） 〉
 - ・明るい笑顔とさわやかなあいさつができる生徒
 - ・コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築く生徒
 - ・思いやりの気持ちをもち、相手の立場に立って考え、行動する生徒
- 〈 鍛える生徒（たくましく） 〉
 - ・夢や希望をもち、目標に向かって粘り強く挑戦する生徒
 - ・心と体を鍛え、自ら考え、正しく判断し、行動する生徒

3 目指す教師像 「生徒の自己実現のために伴走し夢を後押しする教師」

- (1) 教育目標の具現化に向けて、自らのよさを発揮し、学校経営に積極的に協働し共励し合う教職員
 - ① 学校組織マネジメントの意義を理解した上で、限られた時間や資源を効率的に用いつつ、学校運営の持続的な改善を支えられるよう、校務に積極的に参画し、組織の中で自らの役割を果たす。
- (2) 生徒の学びに伴走し、変化に合わせて常に学び続けようとする教職員
 - ① 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、生徒中心の授業の実践と教育データを適切に活用する。
 - ② 生徒指導と教育相談の意義や原理を理解し、他の教職員や関係機関等と連携しつつ、個に応じた指導や集団指導を実践する。
 - ③ 特別な配慮や支援を必要とする生徒の特性等を理解し、組織的に対応するために必要となる知識や支援方法を身に付けるとともに、学習上・生活上の支援の工夫する。
- (3) 家庭・地域とスクラムを組み、生徒の健全育成に取り組む信頼される教職員
 - ① 生徒や教職員の生命や心身を脅かす事故・災害等に普段から備え、様々な場面に対応できる危機管理の知識や視点を持つ。
 - ② 自身や学校の強みと弱みを理解し、自らの力だけでできないことを客観的に捉え、家庭・地域等も含めた他者との協力や関わり、連携協働を通じて課題に取り組む。
 - ③ 生徒の心身の発達過程や特徴を理解し、一人ひとりの状況を踏まえながら、生徒との信頼関係を構築すると共に、それぞれの可能性や活躍の場を広げ伸ばす集団づくりを行う。

4 本年度の経営の重点・努力点

(1) 学力・体力の向上

- ①生徒一人ひとりの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実とICTを活用した『じ・し・ゃ・く』（じぶんできめる・しこうする・やってみる・クラウド）、に取り組み、指導力向上と授業改善に取り組む。
- ②教育委員会からの指導者招聘や学力向上カウンセリングの機会を活用し指導の工夫改善を図り、学力向上とその手立て（学力向上ポートフォリオ）に全教員で取り組み、学び得たことをアウトプットする力を育てる。
- ③自分の学びの履歴や中間の学習履歴を確認しながら自らの学びを調整する主体的な学習（家庭学習含む）の定着・充実・工夫改善を図り、家庭や近隣小学校とも連携して計画的な実践に取り組む。
- ④3年間を見通し、体育授業、学校保健、学校行事、部活動を通して基礎体力や持久力の向上と健康の保持・増進を図る。

(2) 生徒指導・教育相談体制の充実

- ①基礎・基本を徹底すると共にあたたかな人間関係を育み、生徒の様子と、スクールダッシュボードに反映されるデータから生徒一人ひとりの課題解決に向けた個々の悩みや思いを共感的に受け止め、学校生活への適応や人格の成長を支援する。
- ②「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に全力で取り組む。
- ③生徒に寄り添い、粘り強い指導を行うと共に、家庭、関係機関と連携し信頼関係に基づいた指導の充実を図る。
- ④生徒指導、教育相談の充実に向けての組織的な取組と、不登校生徒や配慮を必要とする生徒に対する保護者との連携と丁寧な対応を行う。
- ⑤生徒の自己存在感、共感的な人間関係、自己決定の場を設定し、自己肯定感を高め自己の可能性を伸ばし育てる。

(3) 小・中一貫教育の推進

- ①大宮西小学校・宮前小学校との連携を進め、児童生徒の教育的課題を把握するほか、大宮西小学校との相互授業参観や合同研修会、家庭学習強化週間の取組などで日常的な交流を充実させる。
- ②義務教育9年間を見通した教育課程の編成と系統的な指導方法に基づき、12年間の学びの連続性を重視する。
- ③つぼみの日、あいさつ運動、「さいたま市ストップいじめ！子どもサミット」等を通し児童生徒間の交流事業を推進する。

(4) 心の教育・豊かな人間性の育成

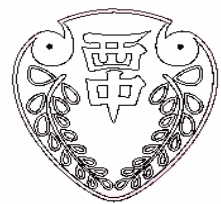
- ①互いを尊重し合い認め合う人権感覚を育成する指導方法の工夫を図り、希望あふれる学校づくりを推進する。
- ②特別の教科道徳の時間を核として、道徳教育の充実に努めるほか、特別活動（進路指導・キャリア教育等）、総合的な学習の時間（潤いの時間、STEAMS TIME 等）等を通して多角的、多面的に豊かな人間性や創造性を育む実践を行う。
- ③特別支援学級（8組）を核とした交流及び共同学習や、ひまわり特別支援学校等との交流を促進する。
- ④生徒会活動を活性化させ、SDGsの実現を目指した取組やボランティア活動実践等を通して、自己肯定感や、社会性・国際性を育成する。
- ⑤朝読書活動の推進、学校図書館司書等の連携、各教科のICTの活用や教科横断的な視点の取組を通して読解力や思考力の向上を目指す。

(5) 安全・安心な教育環境の整備・充実

- ①防災（避難訓練、集団下校等）・安全教育（自転車安全教室、スマホ・タブレット安全教室等）の推進を図ると共に、安全・安心な学習環境を整え、家庭や地域社会と連携し、自助・共助の力を付ける。
- ②校内緑化、学校ファーム、中庭の芝生、掲示教育等を一層充実し、潤いのある教育環境の整備を図る。
- ③学校安心メール等の積極的な発信で家庭や地域社会と連携し、あらゆる事故防止の徹底を図る。
- ④校内教育センター「Sola るーむ」の設置により生徒が自分に合ったペースで学習・安心して落ち着ける居場所を確保し、一人ひとりの個性に合った成長ができるように支援する。

(6) 家庭・地域との連携・協働

- ①スクールサポートネットワーク（SSN）との連携を強化し、家庭・地域と共にコミュニティ・スクールによる教育実践を進める。
- ②学校地域連携コーディネーターを中心に※「土曜チャレンジスクール」の運営を充実させ、地域の教育リソースを活用した教育活動を推進していく。※本校では「藤花教室」と名称
- ③地域行事に参加し、家庭・地域との協力のもと、連携・協働して地域の一員であることの意識を育てる。また、「朝のあいさつ運動」やボランティア活動等を生徒主体として活動すると共にPTAと連携、協力し推進する。
- ④学校・学年により、学校HP、学校安心メール等で積極的に情報を発信すると共に、学校公開、授業参観、保護者会等を通して学校の教育活動を理解していただき、開かれた学校づくりを実現していく。



令和8年度　さいたま市立大宮西中学校　グランドデザイン

【基本理念】教育は信頼と愛情の上に成立する

【学校経営方針】

～『あい』と「志」をつなげる教育活動の推進～

学校教育目標　【目指す生徒像】

創造する生徒（かしこく）　心豊かな生徒（ゆたかに）　鍛える生徒（たくましく）　の育成

- ・共に学ぶ喜びを味わえる生徒
- ・自分のよさを認め、それをさらに伸ばそうとする生徒

- ・明るい笑顔とさわやかなあいさつができる生徒
- ・コミュニケーションを通して豊かな人間関係を構築する生徒
- ・思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え、行動する生徒

- ・夢や希望をもち、困難に立ち向かって、粘り強く挑戦する生徒
- ・心と体を鍛え、自ら考え、正しく判断し、行動する生徒

【目指す学校像】

生徒・教職員一人ひとりの「志」と希望を支え、誰もが成長を実感できる笑顔と『あい』あふれる学校

- ・子どもたちが、自ら学びを更新し、自分の頭で考え、主体性をもって、**学び合い・認め合い** 成長する学校
- ・生徒が安全・安心して学び続ける居場所づくりと生徒の可能性を開花させる学校
- ・学校に携わるすべての人々の Well-being(幸せ)の実現に向けた、学校・家庭・地域の連携と協働する開かれた学校（コミュニティ・スクールとスクールサポートネットワークの一体的な推進）
- ・教職員が、**情熱とプロ意識**を持ち、互いに**支え合い** 「チーム大宮西中」として実践する活気ある学校

【未来を拓くさいたま教育】

【希望と課題が交錯する時代】
全ての子どもが多様で豊かな可能性を開花させるため
▶技術と人間性が調和する未来志向の教育の推進
“Technology & Heart: Learning For the Future”
Ⅰ 「未来を拓く、新たな学びの章へー教育 DX の本格展開
Ⅱ すべての子どもに届く学びのためにーカリキュラム・マネジメントの充実
Ⅲ エージェンシーを育てるコミュニティ・スクールのカー共に語り、共に創る、未来の学びのかたち

【目指す教師像】

生徒の自己実現のために伴走し夢を後押しする教師

- ・教育目標の具現化に向けて、自らのよさを発揮し、学校経営に積極的に協働・共励する教職員
- ・生徒の学びに伴走し、変化に合わせて常に学び続けようとする教師
- ・家庭・地域とスクラムを組み、生徒の健全育成に取りむ信頼される教職員

大宮西中 推進プラン

〈真の学力〉

〈個に応じた最適な指導・支援〉

〈連続性〉

〈豊かな人間性〉

〈安全・安心〉

〈連携・協働〉

○学力・体力の向上

- ・生徒ひとり一人の可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的実現のためのICTを活用した『じ・し・ゃ・く』の取組
- ・学力向上とその手立て（学力向上ポートフォリオ）に全教員で取り組み、学び得たことをアウトプットする力の育成
- ・学びの履歴の確認と主体的な学習（家庭学習含む）の定着・充実
- ・近隣小学校との連携・工夫改善
- ・3年間を見通した、体育授業、学校保健、学校行事、部活動を通して基礎体力や持久力の向上及び健康の保持・増進

○生徒指導・教育相談体制の充実

- ・生徒一人ひとりの課題解決に目を向けた積極的な生徒指導の推進
- ・「いじめ防止基本方針」に基づいた、いじめの未然防止・早期発見・早期対応
- ・生徒に寄り添い粘り強い指導と保護者・関係機関と連携し、信頼関係に基づいた指導の充実
- ・生徒指導、教育相談の充実に向けた組織的な取組と不登校生徒や配慮を必要とする生徒に対する保護者との連携を基にした丁寧な対応
- ・自己存在感、共感的な人間関係、自己決定の場の設定と自己肯定感の向上

○小・中一貫教育の推進

- ・大宮西小、宮前小との連携の促進及び児童生徒の教育的課題の把握と日常的交流の充実
- ・小・中の一貫した系統的な指導方法の充実による12年間の学びの連続性を重視
- ・つぼみの日、あいさつ運動、さいたま市ストップいじめ！子どもサミット等を通して児童生徒間の交流事業の推進

○心の教育・豊かな人間性の育成

- ・互いを尊重し認め合う人権感覚の育成と希望あふれる学校づくりの推進
- ・特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間等を通じた豊かな人間性と創造性の育成
- ・特別支援学級を核とした交流、共同学習、ひまわり特別支援学校との交流の促進
- ・生徒会活動の活性化による自己肯定感・国際性・社会性の育成
- ・朝読書活動の推進と各教科のICTと教科横断的視点の取組による読解力や思考力向上

○教育環境の整備・充実

- ・防災、安全教育の推進と共に、安心・安全な学習環境の整備、家庭や地域社会との連携、自助・共助の育成
- ・校内緑化、学校ファーム、中庭の芝生、掲示教育等の一層の充実と、潤いのある教育環境の整備
- ・学校安心メール等の積極的な発信による家庭や地域社会との連携と、事故防止の徹底
- ・「Sola るーむ」の設置による個に応じた学習と生活の支援

○家庭・地域との連携・協力

- ・SSN連携・強化とコミュニティ・スクールによる教育実践の推進
- ・土曜チャレンジスクール（藤花教室）の運営充実と、地域の教育リソースの活用
- ・地域行事への積極的な参加、家庭・地域との連携・協働による地域の構成員としての意識の育成
- ・各たより、HP、学校安心メール等による積極的な情報発信、開かれた学校づくりの実現

第1学年 教科名 「国 語」		担 当(日吉 史生)	
≪授業の受け方と学習の進め方≫～毎時間の授業を大切に～ ・教科書、ノート、国語辞典を毎時間必ず用意すること。資料集、漢字ノート・漢字練習ノートは必要時に指示する。 ・説明や話を静かに、一度で聴くこと。 ・発言はルールに従って行い、言葉を大切に使うこと。 ・発言をよく聞いて他の考え方やものの見方を広めること。 ・提出物を期限に必ず提出すること。（提出物の内容も重要） ・始業、終業の挨拶をしっかり行うこと。			
学期	内 容	教材名	主な学習目標
通年	言語	漢字学習	新出漢字、既習漢字の読み書きを覚える。
	話すこと・聞くこと	話し方、聞き方	いろいろな場面での話し方、聞き方、話し合い方について学ぶ。
	書くこと	課題作文の書き方	課題作文の書き方を学ぶ。
1 学 期	話すこと・聞くこと	自己紹介	発表の仕方、聞き方を学ぶ。
		メモの取り方	メモの取り方とメモを使っての話し方を学ぶ。
		お気に入りの一品を紹介する	自分の考えを相手にわかりやすく説明する。
		内容を整理して説明する	聞き手がわかりやすいように、話す内容を整理して表現する。
	書くこと	自己紹介文	自己紹介文の書き方を学ぶ。
		原稿用紙の使い方	原稿用紙の使い方を学ぶ。
		資料から得た根拠をもとに意見文を書く	資料を比較して共通点と相違点を見つける。
		材料を整理して案内文を書く	目的や意図を意識して案内文を書く。
	読むこと	学校図書館の使い方	学校図書館の利用の仕方、活用方法を知る。
		ふしぎ・四季の詩	学習のきっかけとなる言葉をとらえ、その言葉を手がかりに作品を読み深める。
		桜蝶	文学作品の構成や展開を描写をもとに理解する。
		自分の脳を知っていますか	文章の中心的な部分に着目し内容を捉える。
	言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化に関する事項	ベンチ	本や文章から必要な情報を集めるための方法を身につける。
		辞書の使い方	国語辞典、漢和辞典の使い方を知る。漢字の部首、画数と活字の字体、漢字の音と訓
		日本語の音声	日本語のもつ音の特徴を理解する。
		漢字の部首	漢字の部首についての理解を深める。
		硬筆 楷書で書こう	ペンの持ち方や姿勢に気を付けて書く。
		画数と活字の字体	画数と活字の字体についての理解を深める。
	言葉の単位	文章・段落・文・文節・単語という単位について理解する。	
	2 学 期	話すこと・聞くこと	ビブリオバトル
調べた内容を聞く			友達のスピーチを聞いて、必要に応じて質問する。
書くこと		根拠を明確にして意見文を書く	行事の案内文に必要な内容や構成を理解する。推敲を行う。
		随筆を書く	身近に起きたことや経験したことをまとめて、叙述の仕方を考える。
読むこと		オツベルと象	作品の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつ。
		蜘蛛の糸	わが国を代表する作家とその作品についてふれ、近代の小説や物語を読む。
		河童と蛙	場面と描写を結びつけて読む。
		森には魔法つかいがいる	問とその答えを見つけていく展開を捉えて読む。
言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化に関する事項		子どもの権利	論理の構成や展開に着目して筆者の主張を読む。
		昔話と古典（箱に入った桃太郎）	古典の仮名遣いを知る。（川柳、滑稽本、いろは歌、十二支、月の異名）
		物語の始まり（竹取物語）	物語について調べたり、話し合ったりして、そのおもしろさを理解する。
		故事成語（中国の名言）	故事成語について調べたり、発表したりして、由来や意味を理解する。
		文の成分	文の成分について理解する。
		方言と共通語	方言と共通語の特徴について知る。
書初め 楷書で書こう	行の中心や文字の大きさ、字間を考えてバランスよく書く。		
3 学 期	話すこと・聞くこと	発言を結びつけて話し合う	グループでアイデアを出して、話題にそった話し合いを行う。
	書くこと	読み手を意識して報告文を整える	図表から情報を読み取り、相手にわかりやすいレポートを書く。
	読むこと	言葉がつなぐ世界遺産	筆者のものの見方や考え方を捉えとともに、言葉のはたらきについての自分の考えをまとめる。
		少年の日の思い出	語り手に着目して作品を読み、自分のものの見方や考え方を広げる。
	言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化に関する事項	百人一首	古典にはさまざまな作品があることや、古典の仮名遣いのきまりを知る。
		単語のいろいろ	単語分類の基準について理解する。
		漢字の音と訓	漢字の音と訓について理解を深める。
熟語の構成		熟語の構成の基本的な型を知る。	
毛筆 行書で書こう	点画の変化や筆脈の連続に注意して、行書に慣れる。		
評価の観点と方法			
≪評価の観点と具体的な評価方法≫ ○知識・技能・・・①言葉の特徴や使い方に関する事項②情報の扱い方に関する事項③我が国の言語文化に関する事項 （例：言語・文法・漢字・硬筆・毛筆・ペーパーテスト） ○思考・判断・表現・・・①話すこと・聞くこと②書くこと③読むこと （例：スピーチ・ビブリオバトル・課題作文・文章の読解・グループでの話し合いの様子・ペーパーテスト） ○主体的に学習に取り組む態度・・・（例：ノートやレポートなどにおける記述・授業中の発言・教師による行動観察 ・生徒による自己評価や相互評価）			

第2学年 教科名 「国 語」		担 当 （ 渡 邊 正 浩 ）	
≪授業の受け方と学習の進め方≫～毎時間の授業を大切に～ ・教科書、ノート、国語辞典は、毎時間必ず用意すること。（資料集、漢字ノート等は、指示があった時） ・説明や話を静かに、一度で聴くこと。・発言はルールに従って行い、言葉を大切に扱うこと。 ・他の発言をよく聞いて、自分の考え方やものの見方を広めること。・提出物を期限内に必ず提出すること。（提出物の内容も重要） ・始業の挨拶をしっかりと行うこと。			
	内 容	教材名	主な学習目標
通 年	言語	漢字学習	新出漢字・既習漢字の読み書きを覚える。
	話すこと・聞くこと	話し方・聞き方	いろいろな場面での話し方、聞き方、話し合い方について学ぶ。
	書くこと	課題作文の書き方	課題作文の書き方を学ぶ。
1 学期	話すこと・聞くこと	質問をする力をつける	話し言葉と書き言葉の特徴について理解することができる。
		説得力のある提案をする	話の構成を効果的に組み立てて話す。
	書くこと	新聞の投書を書く	自分の意見（立場）にそって投書記事を書く。「構成の型」を用いて、文章を書く。
		構成を明確にして手紙を書く	相手や目的に応じて、お礼の手紙を書く。「推敲のポイント」にそって手紙を推敲する。
	読むこと	虹の足	朗読の楽しさを味わう。
		タオル	描写の効果や登場人物の言動の意味に着目して、作品を読み深める。
		日本の花火の楽しみ	筆者のものの見方や考え方を捉え、「日本の花火の魅力」についてまとめる。
	言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化に関する事項	まちがえやすい漢字	似た形やまちがえやすい漢字についての理解を深める。
		硬筆 横書きの楷書	ペンの持ち方や姿勢、横書きの配列に気を付けて書く。
		話し言葉と書き言葉	話し言葉と書き言葉の特徴を捉える。
		敬語	敬語のはたらきや特徴について理解する。
		活用のない自立語	活用のない自立語を理解する。
2 学期	話すこと・聞くこと	ビブリオバトル	発表の仕方、交流の仕方について学ぶ。
		観点を明確にして伝える	集めた情報を整理して関係を理解し、適切に活用して課題を解決する。
	書くこと	根拠をもとに意見文を書く	表現の仕方を工夫して、物語を創作する。描写や比喩などを用いて、心情を効果的に伝える。
	読むこと	紙の建築	事例の役割や効果を確認しながら読む。
		ガイアの知性	自然や知性に対する筆者の考え方について、自分の考えをまとめる。
		夏の葬列	時間の順序に留意し、人物の心情の変化や言動の意味について考え、作品を解釈する。
		水の山 富士山	富士山の恵みについて、筆者の考えを捉え、自分の考えをまとめる。
		敦盛の最期（平家物語）	登場人物の言動や心情について話し合い、作品の理解を深める。
		随筆の味わい（枕草子・徒然草）	古人のものの見方や考え方に対して、自分の考えをもつ。
		二千五百年前からのメッセージ	表現を確認しながら、内容について自分の考えをまとめる。
	言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化に関する事項	短歌の味わい	情景や心情を掘り起こし、声に出して短歌を読む。
		活用のある自立語	用言の活用と種類・用法を理解する。
		漢字の成り立ち	間違いやすい漢字、漢字のなりたちについて知る。
		漢字の多義性	漢字の多義性についての理解を深める。
		行書による書初め	文字の大きさや字間、行の中心などを理解して、配列よく書く。
3 学期	話すこと・聞くこと	相違点を明確にして聞く	論理の展開などに注意しながら聞く。
		よりよい結論を導く討論をする	結論を導くために、相手の立場に立って推論しながら、意見を述べる。
	書くこと	記事を書く	情報がわかりやすく伝わるように、文章や見せ方を工夫する。
		「連作ショートショート」を書く	表現したい内容に合った言葉を選び、語彙を豊かにする。
	読むこと	学ぶ力	筆者のものの見方や考え方を捉え、知識や体験と関連づけて自分の考えをまとめる。
		走れメロス	登場人物や語り手のものの見方や考え方についての理解を深め、自分の考えをもつ。
	言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化に関する事項	付属語のいろいろ	付属語にはどのようなものがあるのかを知る。
		類義語、対義語、多義語、同音語	類義語、対義語、多義語、同音語について知る。
		同音の漢字	漢字の多義性、同音の漢字
		行書で書こう	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くことができる。
評価の観点と方法			
≪評価の観点と具体的な評価方法≫ ○知識・技能・・・①言葉の特徴や使い方に関する事項②情報の扱い方に関する事項③我が国の言語文化に関する事項 （例：言語・文法・漢字・硬筆・毛筆・ペーパーテスト） ○思考・判断・表現・・・①話すこと・聞くこと②書くこと③読むこと （例：スピーチ・ビブリオバトル・課題作文・文章の読解・グループでの話し合いの様子・ペーパーテスト） ○主体的に学習に取り組む態度・・・（例：ノートやレポートなどにおける記述・授業中の発言・教師による行動観察・生徒による自己評価や相互評価の内容）			

第3学年 教科名 「国 語」		担 当 （ 泉水 敬子 ）		
≪授業の受け方と学習の進め方≫～授業を大切に～ ・教科書、ノート、漢字テキスト、漢字ノートは毎時間用意すること。国語便覧、文法ノートは必要時に指示する。 ・説明や話は静かに一度で聴くこと。・発言はルールに従い、言葉を大切に使うこと。 ・発言はよく聞いて、他の考え方や物の見方を広めること。 ・提出物は、提出期限を必ず守ること。（提出物の内容も重要）・自己の発言、表現に最大限注意をはらうこと。				
学期	内 容	教材名	主な学習目標	
	言語	漢字学習	新出漢字・既習漢字の読み書きを覚える。	
	話す・聞く能力	話し方・聞き方	いろいろな場面での話し方、聞き方、話し合い方について学ぶ。	
	書く能力	課題作文の書き方	課題作文の書き方を学ぶ。	
1 学 期	話すこと・聞くこと	一言でまとめ一言から広げる	言葉の意味を把握し、具体的なできごとを考え話す。	
		構成を考えて主張をまとめる	社会生活の中から課題を見つけ、主張をまとめ話す	
	書くこと	具体例をもとに説明文を書く	具体例をもとに読み手に説明するために構成を工夫した文章を書く。	
		説得力のある批評文を書く	伝えたいことを明らかにし、説得力のある文章を書く。	
		俳句の味わい	言葉の意味を掘り起し、俳句を詠む。	
	読むこと	春に	言葉の中の春を読む。	
		立ってくる春	展開の仕方に着目して、筆者の個性的な考えを捉える。	
		なぜ物語が必要なのか	知識と経験と結び付けて文章を読み、内容を評価する。	
		私	文章を吟味して読み、文章に表れているものの見方や考え方について批評する。	
		AIは哲学できるか	筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の考えを述べる。	
		async 同期しないこと	社会や他社との関わりについて自分の考えを広げたり深めたりする。	
		最後の一句	我が国を代表する作家と作品に触れ、近代の小説を読み味わう。	
	言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化に関する事項	呉音・漢音・唐音	漢字の音の歴史についての理解を深める。	
		硬筆展に向けて	漢字と仮名のバランスに注意して、行書を整えて書く。	
		熟字訓	熟字訓についての理解を深める。	
		異字同訓	異字同訓についての理解を深める。	
		四字熟語	四字熟語についての理解を深める。	
		和語・漢語・外来語	和語・漢語・外来語について理解し、効果的に使い分ける。	
		慣用句・ことわざ	慣用句やことわざのはたらきや使い方を理解する。	
	2 学 期	話すこと・聞くこと	ビブリオバトル	発表の仕方、交流の仕方について学び、本の魅力について話す。
			表現の工夫を評価してスピーチをする	相手や場に適した言葉を用い、表現の工夫をしスピーチする。
		書くこと	自己PR文を書く	読み手を意識して適切な言葉を選び書く。
読む能力		問いかける言葉	文章を読み、社会や他者との関わりについて自分の考えを広げる。	
		実用文を読む	実用文の特徴を理解し、社会生活の中で生かす。	
		初恋	文語定型詩の特徴に注意して読み、暗唱する。	
言葉の特徴や使い方、情報の扱い方、我が国の言語文化に関する事項		旅への思い	情景や心情について注意し、文章の特徴を理解して読む。	
		和歌の調べ	古人のものの見方・考え方を理解しながら、和歌を詠み味わう。	
		風景と心情	漢詩の形式・表現上の工夫を理解して、暗唱する。	
		相手に対する配慮と表現	相手を気づかう表現について学ぶ。	
		文法的に考える	日常生活の中の文法について考える。	
		書写 書初め	文字の大小や行の中心をに注意して、行書を書く。	
3 学 期	話すこと・聞くこと	意見を共有しながら話し合う	進行の仕方を工夫して、合意形成を行う話し合いをする。	
		卒業スピーチ	自分の思いの伝え方	
	書くこと	情報をまとめて作品集を作る	読み手に自分の思いが伝わる作品集を作る。	
		旅立ちの準備	座右の銘、日本一短い手紙 他	
	読むこと	故郷	「希望」について考え、人間、社会などについて自分の意見をもつ。	
		バースデイ・ガール	これまでの自分の読書活動を振り返り、さまざまな作品を読む。	
言語文化に関する事項	持続可能な未来を創るために	持続可能な社会の実現に向けて、自己変容を通じて未来を考える。		
評価の観点と方法				
≪評価の観点と方法≫ ○知識・技能……①言葉の特徴や使い方に関する事項②情報の扱い方に関する事項③我が国の言語文化に関する事項 （例 言語・文法・漢字・硬筆・毛筆・ペーパーテスト） ○思考・判断・表現……①話すこと・聞くこと②書くこと③読むこと （例 スピーチ・ビブリオバトル・課題作文・文章の読解・グループでの話し合いの様子・ペーパーテスト） ○主体的に学習に取り組む態度……（例 ノートやレポートなどにおける記述。授業中の発言・教師による行動観察・生徒による自己評価や相互評価の内容）				

第1学年 教科名【社会】 担当（井上 敦貴）		
授業の受け方と学習の進め方 ・忘れ物をしない。 ・積極的に課題に取り組む。 ・ディスカッションで積極的に意見を交換する。 ・提出物は期限を守って提出する。 ・授業があった日のうちに復習を行う。		
年間の授業計画と主な学習のねらい ※地理55時間、歴史50時間		
学期	学習内容（単元名）	主な学習のねらい
1学期	【地理】 ○世界の地域構成 ○日本の地域構成 ○世界各地の人々の生活と環境 【歴史】 ○私たちと歴史 ○身近な地域の歴史 ○古代までの日本 ①文明・宗教のおこりと日本の成り立ち ②古代国家の形成と東アジアとの関わり	・地球儀や地図を活用し、世界や日本のすがたをとらえている。 ・世界の地域構成や日本の地域構成をさまざまな特徴からとらえている。 ・地域で異なる人々の生活や環境の違いを写真、統計資料などの諸資料からとらえている。 ・人々の生活と自然及び社会的条件とのかかわりを理解している。 ・歴史をとらえる見方・考え方を理解し、資料を読み取ったり、年表にまとめている。 ・自らが生活する地域への関心を持って、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめている。 ・古代文明や宗教が起こった場所や環境などに着目し、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 ・日本で国家が形成されていった過程を東アジアの動きと関連付けて理解している。
2学期	【地理】 ○世界の諸地域 ①アジア州 ②ヨーロッパ州 ③アフリカ州 ④北アメリカ州 ⑤南アメリカ州 ⑥オセアニア州 【歴史】 ○中世の日本 ①武家政治の成立とユーラシアの交流 ②武家政治と東アジアとの関わり ③民衆の成長と新たな文化の形成	・世界の諸地域の地域的特色を下記の学習テーマなどを例にして理解している。 ①アジア州 「急速に進む成長と変化」 ②ヨーロッパ州 「国どうしの統合による変化」 ③アフリカ州 「主な生産品に頼る生活からの変化」 ④北アメリカ州 「さかんな農業や工業の特色」 ⑤南アメリカ州 「開発の進展と環境問題」 ⑥オセアニア州 「強まるアジアとの結びつき」 ・地域で見られる地球的課題の要因や影響を、地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。 ・武家政権の成立と支配の拡大、元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解している。 ・武家政治の展開とともに、東アジアとの密接な関わりがあったことを理解している。 ・民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。
3学期		
評価の観点と方法 ① 知識・技能 ←定期テスト、単元末レポート ② 思考・判断・表現 ←定期テスト、単元末レポート、ワークシートの記述 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ←①と②を踏まえた上での評価、単元末レポート、ワークシートの記述		

第2学年 教科名【社会】 担当（ 齋藤 寛温 ）		
授業の受け方と学習の進め方 ・忘れ物をしない。 ・積極的に課題に取り組む。 ・積極的に意見を交換する。 ・提出物は期限を守って提出する。 ・授業があった日のうちに復習を行う。		
年間の授業計画と主な学習のねらい ※地理60時間、歴史45時間		
学期	学習内容（単元名）	主な学習のねらい
1 学期	【歴史】 ○近世の日本 ①ヨーロッパ人との出会いと全国統一 ②江戸幕府の成立と鎖国 ③産業の発達と幕府政治の動き 【地理】 ○地域調査の手法	・江戸幕府の成立の過程や貿易の振興から鎖国への動きを理解させる。 ・産業の発達、町人文化の興隆のようすを、資料をもとにとらえさせる。 ・江戸幕府の改革の内容や政治の行き詰まりの過程を理解させる。 ・観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解させる。 ・地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けさせる。 ・地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を考察、表現させる。
2 学期	【地理】 ○日本の諸地域 ①自然環境を中核とした考察の仕方 ②人口や都市・村落を中核とした考察の仕方 ③産業を中核とした考察の仕方 ④交通や通信を中核とした考察の仕方 ⑤その他の事象を中核とした考察の仕方 ○身近な地域の調査	★地域ごとの学習例 北海道地方・・・①の考察の仕方 九州地方・・・①の考察の仕方 東北地方・・・⑤の考察の仕方 中国・四国地方・・・②の考察の仕方 近畿地方・・・③の考察の仕方 中部地方・・・③の考察の仕方 関東地方（首都圏）・・・②・④の考察の仕方 ・地形図の読み取りなど調査の基本的な技能を身に付け、地域の特徴について調査させる。 ・調査した内容をまとめ、発表させる。
3 学期	【歴史】 ○近代の日本	・欧米のアジア進出の過程と開国が日本に与えた影響を理解させる。
評価の観点と方法 ① 知識・技能 ←定期テスト、小テスト ② 思考・判断・表現 ←定期テスト、小テスト、単元末レポートなど ③ 主体的に学習に取り組む態度 ←①と②を踏まえた上での評価、単元末レポートなど		

第3学年	教科名【社会】	担当（池田 健人）
授業の受け方と学習の進め方 ・忘れ物をしない。 ・積極的に課題に取り組む。 ・積極的に意見を交換する。 ・提出物は期限を守って提出する。 ・授業があった日のうちに復習を行う。		

年間の授業計画と主な学習のねらい ※歴史40時間、公民100時間

学期	学習内容(単元名)	主な学習のねらい
1 学 期	【歴史】 ○近代の日本 ○近代の日本と世界 ○現代の日本と世界 【公民】 ○私たちと現代社会	・国際社会との関わり、近代産業の発展と近代文化の形成、第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現、第二次世界大戦と人類の惨禍、日本の民主化と冷戦下の国際社会、日本の経済の発展とグローバル化する世界について理解させる。 ・近代化がもたらした文化への影響、経済の変化の政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと我が国との関連、戦後の政治や国際社会、国民生活の変化などに着目して、近現代の社会を考察、表現させる。 ・現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などが見られ、現代社会における文化の意義や影響を理解させる。 ・現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解させる。 ・少子高齢化、情報化、グローバル化が現在や将来の政治、社会、国際関係にあたる影響について考察、表現させる。
2 学 期	○私たちと政治 ○私たちと経済	・人間の尊重、民主的な社会生活、日本国憲法、国会、法の支配、地方自治などについて理解させる。 ・我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について考察、表現させる。 ・民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について考察、構想し、表現させる。 ・身近な消費生活、市場経済、現代の生産や金融、勤労の権利と義務、社会保障、財政及び租税の意義、国民の納税の義務などを理解させる。 ・個人や企業の経済活動における役割と責任、社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について考察、表現させる。 ・市場の働きに委ねることが難しい諸課題に関して、国や地方公共団体が果たす役割、財政及び租税の役割について考察、表現させる。
3 学 期	○私たちと国際社会の諸課題	・世界平和の実現、人類の福祉増大を国際協調の観点から、国家間の主権の尊重と協力、各国の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解させる。 ・地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題の解決のために経済的、技術的な協力が大切であることを理解させる。 ・国際社会における我が国の役割について考察、構想し、表現させる。 ・私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を考察、構想し、自分の考えを説明、論述させる。

評価の観点と方法

①知識・技能

←定期テスト、小テスト、レポート

②思考・判断・表現

←定期テスト、小テスト、レポート

③主体的に学習に取り組む態度

←①と②を踏まえた上での評価、レポートや振り返りなど

第2学年		教科名「 数学 」	担当教諭（ 山田 善文 ）
授業の受け方と学習の進め方 ・積極的に課題に取り組みよく考える。 ・先生の説明、他の人の意見をよく聞く。 ・わからないことや疑問点は質問をする。 ・わからなかったことをそのままにしない。 ・授業のあった日にその日の復習をする（授業に合わせてワークをやりとよい）。 ・プリントはノートに貼る。 ・忘れ物をしない。 ・提出物は期限を守る。			
年間の授業計画と主な学習のねらい			
学期	学習内容（単元名）	主な学習のねらい	
1学期	I 式の計算	・簡単な整式の加法、減法の計算や整式に数をかける計算、単項式どうしの乗法、除法の計算をする。 ・数量の関係を帰納や類推によって発展的にとらえ、文字式を用いて一般的に説明する。 ・目的に応じて、きまりに従って式を変形する。また、簡単な場合について、関係を表す式を等式の性質を用いて同値変形する。	
	II 連立方程式	・二元一次方程式の中の文字や解の意味を理解する。 ・方程式を連立させることの意味を理解する。 ・連立させた方程式を解くことは、それぞれの方程式を同時に満たす解を求めることであることを理解する。	
	III 一次関数	・一次関数は $y = ax + b$ という式で表される関数であることを理解する。 ・具体的な場面で一次関数を利用して事象を考察する。 ・二元一次方程式を、一次関数を表す式とみる。 ・グラフを用いて、連立二元一次方程式の解の意味を理解する。	
2学期	IV 図形の調べ方	・平行線や角の性質を理解し、それを基にして図形の性質を確かめる。 ・平行線や三角形の角の性質を基にして、多角形の角の性質を見いだす。 ・根拠に基づいて結論を導くことが証明であることを理解する。 ・三角形の合同条件を理解する。	
	V 図形の性質と証明	・平行線の性質や三角形の合同条件を根拠にして、演繹的な推論によって様々な図形の性質や条件等を見だし、考察し、確かめる。 ・平行四辺形の性質を見だし、確かめる。	
3学期	VI 確率	・起こり得る場合の数を順序よく整理して、正しく数え上げる。 ・不確定な事象が起こり得る程度を表すのに、確率を用いることを知る。 ・簡単な場合について確率を求める。	
	VII 箱ひげ図とデータの活用	・四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解する。 ・コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理し、箱ひげ図で表す。 ・四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断する。	
評価の観点と方法			
知識・技能…定期テスト・小テストの結果、授業における発言や提出物の内容 思考・判断・表現…定期テスト・小テストの結果、授業における発言や提出物の内容 主体的に学習に取り組む態度…授業への取り組み方、授業における発言・発表、提出物の内容、ふり返りの内容、自主学習の様子、定期テストの記述内容			

第3学年 教科名「 数学 」 担当教諭（ 吉田 友洋・井上 和彦 ）		
授業の受け方と学習の進め方 ・積極的に課題に取り組みよく考える。 ・先生の説明、他の人の意見をよく聞く。 ・わからないことや疑問点は質問をする。 ・わからなかったことをそのままにしない。 ・授業のあった日にその日の復習をする（授業に合わせてワークをやるとよい）。 ・プリントはていねいにファイリングする。 ・忘れ物をしない。 ・提出物は期限を守る。		
年間の授業計画と主な学習のねらい		
学期	学習内容（単元名）	主な学習のねらい
1学期	I 式の展開と因数分解	・交換法則、結合法則、分配法則などを基にして式の計算をする。 ・簡単な一次式の乗法の計算ができ公式が成り立つことを理解する。 ・公式の意味を理解し、式を能率よく展開したり、因数分解したりする。 ・公式を手際よく利用し、式を目的に合うように変形したり、式の意味をよみとったりする。
	II 平方根	・数の平方根の中には有理数でない新しい数があることを理解する。 ・数の平方根を含む簡単な式の四則計算ができる。 ・数の平方根を含む式の四則計算でも、交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことを理解する。 ・近似値
	III 二次方程式	・等式の変形により $x^2 = k$ の形に導き、平方根の考えを使って解を求める。 ・因数分解を用いて解くことができない二次方程式の解き方を知る。 ・具体的な問題の解決に二次方程式を利用する。
2学期	IV 関数 $y = ax^2$	・事象の中には、関数 $y = ax^2$ を用いてとらえられるものがあることを知る。 ・関数 $y = ax^2$ のグラフと一次関数のグラフとの違いを知り、変化と対応の特徴を理解する。 ・変化の割合が一定でないことからグラフが直線にならないことを理解する ・身の回りの事象を関数 $y = ax^2$ としてとらえ、考察する。
	V 図形と相似	・図形の相似の意味を理解する。 ・平行線の性質や三角形の相似条件を基にして、平行線に関する線分の比の性質を確かめる。 ・平行線に関する線分の比の性質を活用する。
	VI 円の性質	・観察、操作や実験を通して円周角と中心角の関係に気づいて理解する。 ・円周角と中心角の関係から角度を求めることができる。
	VII 三平方の定理	・直角三角形の三つの辺の長さの間の関係に着目して三平方の定理を見いだし、それが証明できることを知る。 ・三平方の定理を長さの関係とともに面積の関係を表すものとみて、図形と数式を統合的に把握する。 ・三平方の定理を図形の計量等に用いる。
	VIII 標本調査	・標本の傾向を調べることで、母集団の傾向が読み取れることを理解する。
評価の観点と方法		
知識・技能…定期テスト・小テストの結果、授業における発言や提出物の内容 思考・判断・表現…定期テスト・小テストの結果、授業における発言や提出物の内容 主体的に学習に取り組む態度…授業への取り組み方、授業における発言・発表、提出物の内容、自主学習の様子、定期テストの記述内容		

中学 1 学年 教科名「理科」担当教諭（ 鈴木 正幸 ）		
【授業の受け方と学習の進め方】 ① 観察、実験に進んで意欲的に取り組む。 ② 「どうして」「なぜだろう」という疑問をもって授業に臨む。 ③ 授業プリント、実験レポートなどの提出物は期限を守って提出する。 ④ 自身の学習状況をつかみ（自己評価）、改善を図りながら、学習に取り組む。		
年間の授業計画と主な学習のねらい		
学期	学習内容（単元名）	主な学習のねらい
1 学 期	1 いろいろな生物とその共通点 ・植物の特徴と分類 ・動物の特徴と分類	・校庭の自然観察（野草や動物を見つける） ・顕微鏡やルーペの使い方を習得する。 ・被子植物の特徴を観察から見いだすことができる。 ・裸子植物の特徴を観察から見いだすことができる。 ・植物（シダ植物、コケ植物を含む）のなかま分けができる。 ・動物の分類の観点を理解できる。 ・身近なセキツイ動物の特徴を理解できる。 ・身近な無セキツイ動物の特徴を理解できる。
	2 身のまわりの物質 ・いろいろな物質とその性質 ・いろいろな気体とその性質 ・水溶液の性質 ・物質のすがたとその変化	・金属、非金属の特徴と密度、プラスチックの性質について知る。 ・化学実験の器具を正しく操作できる。（ガスバーナー、上皿てんびん、メスシリンダーなど） ・気体を発生させる実験を行い、気体の特徴を説明できる。 ・水溶液の特徴を調べることができる。（再結晶、融解度） ・状態変化の質量、体積を調べることができる。 ・物質の沸点や融点を調べ温度変化の特徴を説明できる。
	3 光・音・力による現象 ・光による現象 ・音による現象 ・力による現象	・光の進み方を調べ、特徴を理解できる。 ・光の反射、屈折、できる像の特徴を理解できる。 ・音の高低大小は振幅と振動数に関係していることを調べ説明できる。 ・いろいろな力を調べ、力は大きさと向きで表せることを知る。 ・力の大きさとばねののびの関係を、実験を通して説明できる。 ・2力のつり合いについて説明できる。
2 学 期	4 大地の成り立ちと変化 ・身近な大地 ・ゆれる大地 ・火をふく大地 ・語る大地	・地震波の特徴を観測記録から説明できる。 ・地震の起きる原因をプレートの関係から説明できる。 ・火山の噴火と火成岩の特徴を説明できる。 ・火成岩をスケッチし火山岩と深成岩の違いを説明できる。 ・地層の堆積する様子を調べ、出来方や広がりをも説明できる。 ・堆積岩のスケッチを行い、特徴を説明できる。 ・化石を観察し、示相、示準化石を説明できる。 ・しゅう曲、断層について説明できる。 ・大地の変動による恵みと災害について理解している。
評価の観点と方法		
（ 知識・技能 ） ・小テスト、確認テスト、定期テスト ・ワークシートやレポートの記述内容 ・器具の扱い方などを含むパフォーマンステスト ・観察、実験の基本操作の習得状況 （ 思考・判断・表現 ） ・小テスト、確認テスト、定期テスト ・ワークシート（学びの振り返りシートなど）、観察・実験レポートの記述内容 ・パフォーマンス課題 （ 主体的に学習に取り組む態度 ） 「知識・技能」及び「思考・判断・表現」を踏まえたうえで評価します。 ・レポートやワークシートでの取り組み内容 （授業内でのまとめや発言、記述など、課題解決へ向けた姿勢を評価）		

中学 2 学年 教科名「理科」担当教諭 (野口 美幸)		
【授業の受け方と学習の進め方】 ① 観察、実験に進んで意欲的に取り組む。 ② 「どうして」「なぜだろう」という疑問をもって授業に臨む。 ③ 授業プリント、実験レポートなどの提出物は期限を守って提出する。 ④ 自身の学習状況をつかみ（自己評価）、改善を図りながら、学習に取り組む。		
年間の授業計画と主な学習のねらい		
学期	学習内容（単元名）	主な学習のねらい
1 学 期	1 地球の大気と天気の変化 ・ 地球をとり巻く大気のような ・ 大気中の水の変化 ・ 天気の変化と大気の動き ・ 大気の動きと日本の天気	・ 大気圧について知るとともに、地球表面における大気のようなについて理解している。 ・ 空気中の水蒸気の変化を調べ、相対湿度の意味を理解している。 ・ 前線や低気圧、高気圧の特徴を知り、天気の変化についての理解を深めている。 ・ 日本の四季と天気の特徴、大気の動きの関係について理解している。 ・ 天気図を読み取り、天気を予測できる。 ・ 気象現象による恵みと災害について理解している。
	2 生物の体のつくりとはたらき ・ 生物の体をつくるもの ・ 植物の体のつくりとはたらき ・ 動物の体のつくりとはたらき ・ 動物の行動のしくみ	・ 動物と植物の細胞を観察し、その共通点と相違点について理解している。 ・ 植物の体のつくりとはたらきを理解している。 ・ 動物の体のつくりとはたらきを理解している。 ・ 動物の行動と感覚器官のしくみを理解している。 ・ 人の体のはたらきを器官ごとに理解している。
2 学 期	3 化学変化と原子・分子 ・ 物質の成り立ち ・ 物質の表し方 ・ さまざまな化学変化 ・ 化学変化と物質の質量	・ 物質を分解する実験を行い、原子・分子について理解している。（原子・分子記号を覚える） ・ 物質の化学式を用いた表し方を理解している。 ・ 物質同士の化学変化について実験を行い、その特徴を理解している。 ・ 化学変化を物質のモデル化する方法、化学反応式を用いて表したりする方法について理解している。 ・ 物質の酸化、還元について理解している。 ・ 化学変化と熱エネルギーの関係について理解している。 ・ 質量保存の法則や定比例の法則を、実験を通して理解している。
	4 電気とその利用 ・ 電流の性質 ・ 電流の正体 ・ 電流と磁界	・ 電流回路を組み立てや電流や電圧の値の測定方法について理解している。 ・ 回路での電流、電圧、抵抗の関係を理解している。 ・ 電流と電力、電力と発熱量の関係を理解している。 ・ 静電気のはたらきを知り、電流の正体について理解している。 ・ 放射線の性質とその利用について理解している。 ・ 電流がつくる磁界について実験を行い、その規則性について理解している。 ・ 電流のはたらきを知る。（発電機、モーター） ・ 電流の正体を理解し、直流、交流の違いについて理解している。
評価の観点と方法		
(知識・技能) ・ 小テスト、確認テスト、定期テスト ・ ワークシートやレポートの記述内容 ・ 器具の扱い方などを含むパフォーマンステスト ・ 観察、実験の基本操作の習得状況 (思考・判断・表現) ・ ワークシート（学びの振り返りシートなど）、観察・実験レポートの記述内容 ・ パフォーマンス課題、小テスト、定期テスト (主体的に学習に取り組む態度) 「知識・技能」及び「思考・判断・表現」を踏まえたうえで評価します。 ・ レポートやワークシートでの取り組み内容 (授業内でのまとめや発言、記述など、課題解決へ向けた姿勢を評価) ・ 提出物、レポート等の取り組み内容		

中学3学年	教科名「理科」担当教諭（志村 雅宏）
【授業の受け方と学習の進め方】 ① 観察、実験に進んで意欲的に取り組む。 ② 「どうして」「なぜだろう」という疑問をもって授業に臨む。 ③ 授業プリント、実験レポートなどの提出物は期限を守って提出する。 ④ 自身の学習状況をつかみ（自己評価）、改善を図りながら、学習に取り組む。	

年間の授業計画と主な学習のねらい		
学期	学習内容（単元名）	主な学習のねらい
1学期	生命の連続性 ・生物の成長と生殖 ・遺伝の規則性と遺伝子 ・生物の種類の多様性と進化	- 花粉管の観察を通して、有性生殖について理解させる。 - 無性生殖について理解させる。 - 遺伝子と遺伝の規則性について理解させる。
	化学変化とイオン ・水溶液とイオン ・電池とイオン ・酸・アルカリと塩	- 水溶液に溶けている物質について、電解質と非電解質の違いとイオンの存在やその成り立ちについて理解させる。 - 化学変化によって、電気エネルギーが取り出せること（化学電池）を、実験を通して理解させる。 - 酸とアルカリの特徴について知り、その中和反応のようすをイオンの考え方をもとに理解させる。
2学期	宇宙を観る ・地球から宇宙へ ・太陽と恒星の動き ・月と金星の動きと見え方	- 太陽系の特徴や広がりについて理解させる。 - 宇宙の広がりを経時的、空間的に理解させる。 - 地球の自転に伴う日周運動について理解させる。 - 地球の公転に伴う年周運動について理解させる。 - 季節の変化について、地球の年周運動をもとに理解させる。 - 月の見え方から、地球と月の位置関係について理解させる。 - 太陽の観察からその特徴を理解させる。
	運動とエネルギー ・力の合成と分解 ・物体の運動 ・仕事とエネルギー ・多様なエネルギーとその移り変わり ・エネルギー資源とその利用	- いろいろな運動についての実験を行いながら、時間と速さとの関係について理解させる。 - 記録タイマーを使い、運動の様子を調べることができる。 - 等速直線運動について理解させる。 2力のつり合い・力の合成・分解、作用・反作用について理解させる。 - 運動の変化と力の関係、慣性の法則について理解させる。 - 位置エネルギーの大きさを調べる実験を行い、高さエネルギーの関係について理解させる。 - 理科でいう仕事、仕事率、仕事の原理を理解させる。 - ジェットコースターのモデルを使って、位置、運動エネルギーの変化や移り変わり、力学的エネルギーの保存について説明できる。
3学期	自然と人間 ・自然界のつり合い ・さまざまな物質の利用と人間 ・科学技術の発展 ・人間と環境 ・持続可能な社会をめざして	- 生物どうしのつながりについて食物連鎖を通して理解させる。 - 土中の微生物のはたらきを調べる実験を行い、そのはたらきについて理解させる。 - 自然界の物質の循環について理解させる。 - 自然界のバランスを考え、環境保全について調べることができる。 - 発電に利用されているエネルギー資源の特徴やそれぞれの発電に伴う環境上の問題点について理解させる。 - 科学技術が人間の生活を豊かに、便利にしてきたことを理解させる。
評価の観点と方法 （知識・技能） ・小テスト、確認テスト、定期テスト ・ワークシートやレポートの記述内容 ・器具の扱い方などを含むパフォーマンステスト ・観察、実験の基本操作の習得状況 （思考・判断・表現） ・ワークシート（学びの振り返りシートなど）、観察・実験レポートの記述内容 ・パフォーマンス課題や小テスト、定期テスト （主体的に学習に取り組む態度） 「知識・技能」及び「思考・判断・表現」を踏まえたうえで評価します。 ・レポートやワークシートでの取り組み内容 （授業内でのまとめや発言、記述など、課題解決へ向けた姿勢を評価） ・提出物、レポート等の提出内容を総合的に評価		

令和 8 年度 第 1 学年		教科名「 音楽 」担当 (佐藤 早苗)
○授業の受け方と学習の進め方 歌唱：教科書又は合唱曲集を見ながら、楽譜の読み取りをする。。 合唱コンクールの練習時やパートごとに分かれて歌う場合は、指定された場所で取り組む。 ≪パート別での練習を行う場合≫ パートリーダー（パート各 1 ～ 2 名）主体で練習を進める。全体での合唱練習記録用紙に記入する。PCを使用したパート練習。 創作：タブレットを使用し、方法を理解して、リズム譜を作る。 器楽：アルトリコーダー・箏の学習を行う。PCを使用し練習する。個人・グループでの練習後、合奏する。 鑑賞：配布した鑑賞プリント、鑑賞教材、教科書等を使って授業を受ける。 プリントは、「鑑賞ファイル」に貼る。必ず、ワークシートに学習内容・感想・気づいた点を記入し提出する。 夏休み・冬休みに予習を兼ねたレポート作成。		
年間の授業計画と主な学習のねらい		
学期	学習内容（単元名）	主な学習のねらい
1 学期	・ 授業規律 ・ 発声法 ・ 校歌 ・ 混声合唱曲 ・ リコーダー曲（器楽）	・ 伸び伸びと歌い、友達と歌い合わせる楽しさを味わう ・ 発声方法を基に豊かな声で歌う ・ 旋律やテンポを生かした歌い方 ・ 自分のパートを理解して演奏する。 ・ アルトリコーダーの構造を理解し、基本的な奏法を身につける。
	・ 魔王（鑑賞） ・ 楽しいリズム曲を作ろう（創作） ・ 合唱コンクール曲	・ 歌詞や表現から曲の内容を感じ取る ・ 言葉のリズムを生かして創作する ・ パート練習法（正確な音取り）を学び、歌詞の内容や曲想を工夫して歌う
2 学期	・ 合唱コンクール曲	・ 明瞭で美しい発音の理解 ・ 旋律のフレーズと音楽記号を理解した曲想の工夫
	・ 赤とんぼ（歌唱） ・ 四季より春（鑑賞）～第 1 楽章～ ・ リコーダーアンサンブル（器楽）	・ 日本語の歌詞の美しさを感じ取る ・ 旋律の美しさを味わう ・ ソネットと音楽の関わりを確かめ曲想を感じ取る ・ 正しい運指で、曲に合った速度・音色で演奏する
3 学期	・ 校歌、君が代 ・ 式歌「桜散る頃」	・ 混声合唱の豊かな響きを感じ取り、生き生きと歌う ・ 歌詞、音程を理解し、気持ちを込めて歌い上げる
	・ 箏曲「六段の調べ」 ・ 箏の奏法（実技）	・ 日本の伝統音楽に興味をもって理解する。 ・ 箏の基本的な奏法を学び、演奏する。
評価の観点と方法		
3 観点 ① 知識・技能 ＜期末テスト、ワークシート、実技テスト等＞ ② 思考・判断・表現 ＜期末テスト、ワークシート、レポート作成、実技テスト、提出物の内容等＞ ③ 主体的に学習に取り組む態度＜授業中の発言、課題の提出、練習記録表等＞		

令和8年度 第2学年		教科名「音楽」担当（佐藤 早苗）
○授業の受け方と学習の進め方 歌唱：教科書又は合唱曲集の楽譜を読み取る。合唱コンクールの練習時やパートごとに分かれて歌う場合は、指定された場所で行う。合唱コンクールクラス曲に関するレポート作成。 ≪パート別での練習を行う場合≫ パートリーダー（パート各1～2名）主体で練習を進める。全体での合唱を行った後、次の授業に向けての反省を合唱カードに記入する。 創作：PCを使用して、旋律を作る。作品を発表する。 器楽：アルトリコーダー・打楽器アンサンブルの学習を行う。器楽の教科書や配布したプリントとPC模範演奏動画を使用して演奏練習に取り組む。個人での練習後、グループやクラスで合奏する。 鑑賞：配布した鑑賞プリント、鑑賞教材、教科書等を使って授業を受ける。 夏休み・冬休みに予習を兼ねたレポート作成。		
年間の授業計画と主な学習のねらい		
学期	学習内容（単元名）	主な学習のねらい
1 学 期	- 発声練習 - 混声合唱「生命が羽ばたくとき」 - 動機を生かした旋律を作ろう（創作） - 交響曲 第5番 - オーケストラについて【管弦楽鑑賞教室】（鑑賞） - 合唱コンクール曲	- 伸び伸びと歌い、友達と歌い合わせる楽しさを味わう - 発声練習を基に、豊かな声で歌う 4つの音の動機を用いて工夫し、まとまりのある旋律を作る - オーケストラの豊かな響きを味わう - 鑑賞教室に向けて、オーケストラの基本的な知識を身に付ける - クラス曲を選曲し、合唱コンクールに向けて準備をする
2 学 期	- 合唱コンクール曲 - 日本歌曲「浜辺の歌」 - リコーダー曲 - 打楽器アンサンブル（器楽）	- 歌詞を表情豊かに歌い上げる - 旋律のフレーズと強弱を工夫する - 他と協力してよりよい表現を工夫する - 日本語の美しさを表現し、旋律を生かした歌い方を表現する - フレーズのまとまりを工夫する - リズム譜を読み、合奏班での活動を行う - 様々な打楽器に触れ、自分の担当楽器を他パートとのかかわりを感じながら演奏する
3 学 期	- 打楽器アンサンブル - 雅楽「越天楽」（鑑賞） 卒業式に向けて - 校歌、君が代 - 卒業式歌	- パート練習、合奏班練習を経て、自分の役割や各楽器の音色の特徴を感じ取る - 自分のリズムと他のリズムとの関わりを理解する - 雅楽の表現の特徴を理解して聴き深める - 日本の伝統音楽を味わい、その特徴を感じ取る - 混声合唱の豊かな響きを感じ取り、生き生きと歌う - 歌詞、音程を確認し、気持ちを込めて歌い上げる
評価の観点と方法		
3 観点 ① 知識・技能 < 期末テスト、ワークシート、実技テスト等 > ② 思考・判断・表現 < 期末テスト、ワークシート、レポート作成、実技テスト、提出物の内容等 > ③ 主体的に学習に取り組む態度 < 授業中の発言、提出物、練習記録表等 >		

○授業の受け方と学習の進め方

歌唱：教科書又は合唱曲集の楽譜を見ながら、自主的に練習する。

合唱コンクールの練習時やパートごとに分かれて歌う場合は、指定された場所で行う。合唱コンクールクラス曲に関するレポート作成。

《パート別での練習を行う場合》

パートリーダー（パート各1～2名）主体で練習を進める。全体での合唱を行った後、次の授業に向けての反省を合唱カードに記入する。

創作：PCを使用して、言葉や音階の特徴を生かして、CMを作る。

器楽：主にアルトリコーダーの学習を行う。器楽の教科書や配布したプリントを使って演奏に取り組む。個人でのPC模範演奏動画を使用した練習後クラスで合奏する。

鑑賞：配布した鑑賞プリント、鑑賞教材、教科書等を使って授業を受ける。必ず、感想・気づいた点を鑑賞プリントに記入し提出する。

年間の授業計画と主な学習のねらい

学期	学習内容（単元名）	主な学習のねらい
1 学 期	・「花」滝 廉太郎 ・混声合唱曲 ・リコーダー曲（器楽）	・美しい日本語表現を、明るい響きで歌唱する ・詩情を生かした表現ができるように工夫する ・アルトリコーダーの音色を美しく表現する
	・オペラ「アイダ」 ・合唱コンクールの曲 ・音楽の諸記号の復習と確認	・オペラの雰囲気味わい、特徴を知る ・総合芸術に関心をもち、その意味を理解する ・歌詞の内容や曲想を豊かに表現する ・歌詞を表情豊かに歌い上げる ・旋律のフレーズと強弱を工夫する ・既習の諸記号の意味を理解し、表現活動に活かす
2 学 期	・合唱コンクール曲	・これまでの合唱の学習法を生かし、パート練習やクラス練習を通して、美しい響きを追及する ・意見を出し合い、音楽的知識をもとに曲想を作り上げる
	・器楽アンサンブル	・アルトリコーダーの曲に応じた奏法を身につけ、表現の幅を広げる。
3 学 期	・能「羽衣」 ・狂言「附子」（鑑賞）	・能の魅力に親しみ、謡を学習する ・日本の伝統芸能を知る ・和楽器の音色の特徴を感じ取る
	・校歌（卒業式に向けて） ・君が代 ・卒業式歌 ・卒業生合唱曲	・3年間のまとめとして学習の成果を感じながら響きを持った声で、感情豊かに歌い上げる ・歌詞の内容や曲想を理解する

評価の観点と方法

3 観点

① 知識・技能 ＜期末テスト、ワークシート、実技テスト等＞

② 思考・判断・表現

＜期末テスト、ワークシート、レポート作成、実技テスト、提出物の内容等＞

③ 主体的に学習に取り組む態度 ＜授業中の発言、提出物、練習記録表等＞

第1学年 美術科

1. 目標		担当（ 山岸 啓介 ）
・ 楽しく美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を育てます。 ・ 対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け、意図に応じて創意工夫し美しく表現する能力を育てます。 ・ 自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育てます。		
2. 学習内容 ・主な学習課題		
1 学期	1 「オリエンテーション：美術との出会い」 2 「暮らしを彩る形と色彩」 3 「なぜか気になる情景」	・ 美術に親しみ、主体的に鑑賞の活動に取り組み、創造の喜びを味わう。 ・ 色彩の知識や、絵の具の活用方法、レタリングや平面構成の技能を身に付けるとともに、自分の考えたテーマをもとに、教室で使用するオリジナルロッカーボックスを制作する。 ・ 見慣れた情景の中で気になる場所やものを見つけ、感じ取った形や色彩の特徴や場所のイメージから主題を生み出し、風景画に表す。
2 学期	1 「じっくり見ると見えてくる」 2 「見つめて、感じて、描いて」 3 「Drawing of Emotion 感情のドローイング」	・ 身の回りにあるものをじっくり見て感じ取ったとった特徴から、さらに想像を広げて立体作品で表現する。 ・ 身近なものや愛着のあるものをよく観察して、クロッキーをする。 ・ 身近な人をよく観察し、表情やしぐさからその人物の感情を描き起こす。
3 学期	1 「暮らしの中の木の工芸」 2 「燃え上がる炎のように」	・ 電動糸のこぎりや彫刻刀などを活用し、木の特性をいかして生活で使用するものを制作する。 ・ 縄文土器を鑑賞する。
3. 評価の観点と学習の方法		
1 知識・技能 ・ 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。→形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。 ・ 意図に応じて表現方法を工夫して表している。→材料や用具の活かし方等 2 思考・判断・表現 ・ 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考えている。 ・ 主題を生み出し、豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりしている。 3 主体的に学習に取り組む態度 ・ 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。→意欲的に粘り強く取り組む、課題の改善のために自ら取り組みを工夫する等		
4. 評価の方法		
○授業中の取り組み（制作中、発表等） ○提出作品 ○アイデアスケッチ、ワークシート ○作品レポート など ＊これらを参考にして観点別に評価し、評価結果を総合して評定を決めます。		

第2学年 美術科

1. 目標		担当（ 山岸 啓介 ）
- 主体的に美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高めます。 - 対象を深く見つめ感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばします。 - 自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心を持ち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高めます。		
2. 学習内容 ・主な学習課題		
1 学期	1 「オリエンテーション：あなたの美を見つけて」 2 「陶の器に感謝を入れて贈ろう」 3 「その一枚が心を動かす」	- 美術に親しみ、主体的に鑑賞の活動に取り組み、創造の喜びを味わう。 - 日頃の感謝の気持ちを、焼き物で表現する。 - 様々なテーマについて、メッセージやイメージを伝えるためのデザインを考える。
2 学期	1 「床の間に棲む」 2 「芸術としての漫画表現」	- 生物の形態の美しさや、生き生きとした動きの躍動感を水墨画として表現し、掛け軸に仕上げる。 - 日本が世界に誇る漫画表現を鑑賞し、表現の工夫を生かして、教室で使用するオリジナルロッカーボックスをデザインする。
3 学期	1 「暮らしを彩るあかり」 2 「浮世絵っておもしろい」	- 紙造形の技法を活用して、自分だけのランプシェードを制作し、光の形を生み出す。 - 浮世絵の表現を鑑賞する。
3. 評価の観点と学習の方法		
1 知識・技能 - 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。→形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。 - 意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表している。→材料や用具の活かし方等 2 思考・判断・表現 - 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考えている。 - 主題を生み出し、豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。 3 主体的に学習に取り組む態度 - 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。→意欲的に粘り強く取り組む、課題の改善のために自ら取り組みを工夫する等		
4. 評価の方法		
○授業中の取り組み（制作中、発表等） ○提出作品 ○アイデアスケッチ、ワークシート ○作品レポート など ＊これらを参考にして観点別に評価し、評価結果を総合して評定を決めます。		

第3学年 美術科

1. 目標		担当（ 山岸 啓介 ）
- 主体的に美術の活動に取り組み、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく意欲と態度を高めます。 - 対象を深く見つめ感じ取る力や想像力を一層高め、独創的・総合的な見方や考え方を培い、豊かに発想し構想する能力や自分の表現方法を創意工夫し、創造的に表現する能力を伸ばします。 - 自然の造形、美術作品や文化遺産などについての理解や見方を深め、心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高めます。		
2. 学習内容 ・主な学習課題		
1 学期	1 「オリエンテーション：学びの探究と未来」 2 「仏像の姿に見る人々の祈り」 3 「日本の美意識」	- 美術に親しみ、主体的に鑑賞の活動に取り組み、創造の喜びを味わう。 - 修学旅行に向けて、仏像に興味をもち、当時の人々への思いを膨らませる。 - 修学旅行の学習と関連して、日本らしいイメージや構成を考え、ロッカーボックスをデザインする。
2 学期	1 「あふれだす思いを～自分との対話～」	自己と向き合い、自分の生き方と照らし合わせながら、自分の気持ちや性格、思い出や夢などについて考え、主題を生み出し、表現する。
3 学期	1 「ピカソとゲルニカ」 2 「自分の証を形に」	- ピカソの作品やその生涯から、美術が社会に向けて発揮することができる力について考える。 - 自分の思いを込めながら、自分自身の証明となるオリジナルスタンプを制作する。
3. 評価の観点と学習の方法		
1 知識・技能 - 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。→形や色彩、材料、光などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること。形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。 - 意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表している。→材料や用具の活かし方等 2 思考・判断・表現 - 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考えている。 - 主題を生み出し、豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。 3 主体的に学習に取り組む態度 - 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。→意欲的に粘り強く取り組む、課題の改善のために自ら取り組みを工夫する等		
4. 評価の方法		
○授業中の取り組み（制作中、発表等） ○提出作品 ○アイデアスケッチ、ワークシート ○作品レポート など ＊これらを参考にして観点別に評価し、評価結果を総合して評定を決めます。		

第1学年	教科名【保健体育】	担当	横山・吉川・佐藤	
授業の受け方と学習の進め方				
○チャイムとともに学習開始。チャイム前に整列を完了している。				
○服装を整える。体育着、ハーフパンツ 体育着をハーフパンツに入れる。 ジャージ 袖から手を出す。				
○授業の準備は確実に。体育実技、ファイル、筆記用具など、忘れ物をしない。				
○ケガをしない、させないように安全に気をつける。				
○人の話は一度で聴く。話を聴くとき、活動するときなど、けじめをつける。				
単元名	履修	学習内容	学期	時数
体づくり運動	必修	体ほぐしの運動 体力を高める運動	1/2/3学期	11
陸上競技Ⅰ	必修	短距離走・リレー	1学期	4
陸上競技Ⅱ	必修	走り幅跳び 走り高跳び	1学期	4
陸上競技Ⅲ	必修	長距離走	2学期	9
水泳	必修	クロール・平泳ぎ・背泳ぎ	1学期	9
球技Ⅰ	必修	ソフトボール	1学期	10
球技Ⅱ	必修	ハンドボール	2学期	8
器械運動	必修	跳び箱運動	2学期	8
武道	必修	剣道(基本動作、基本打突)	2学期	8
ダンス	必修	現代的なリズムダンス	2学期	10
体育理論	必修	運動やスポーツの多様性	1/2/3学期	3
保健	必修	心身の機能の発達と心の健康・健康な生活と疾病の予防・傷害の防止	1/2/3学期	17
※時数は目安です。				
評価の観点と評価規準				
観点		A	B	C
知識及び技能	技能	単元によって、異なります		
	知識	・ポイント、課題、解決方法などを、正しく理解できている。	・各運動の特性や成り立ちを理解している ・技能の名称やポイントを理解している ・関連して高まる体力や健康・安全についての留意点を理解している	・していない ・していない ・していない
思考力、判断力、表現力等		・ポイント、課題、解決方法などが具体的に書かれている	・運動の技能ポイントを理解している ・自分の課題を理解している。 ・課題解決の方法を選択したり、工夫したりしている	・していない ・していない ・していない
主体的に学習に取り組む態度		・自分から進んで ・声をかけて ・積極的に ・仲間に助言できる ・仲間に協力できる ・声をかけ合いながら ・課題を見つけて ・積極的に ・できるまで	・授業の約束事を守る ・準備や後片付けをする ・集合や整列を素早くする ・審判や得点、記録などの役割を果たす ・仲間が失敗しても文句を言わない ・仲間に積極的に声をかける ・どんなときもフェアプレーを通す ・課題に積極的に取り組む ・精一杯、活動する ・粘り強く課題に取り組む	・守らない ・～しない ・～が遅い ・～がない ・～を言う ・～をかけない ・～をしない ・できない ・できない ・できない
評価の方法				
1 知識及び技能		授業中の活動の観察、学習のまとめの際の記録、教科内テストの結果、学習カードの記述内容等		
2 思考力、判断力、表現力等		学習カードの記述内容、授業中の行動、発言等の観察		
3 主体的に学習に取り組む態度		活動中の行動等の観察、参加状況、課題の提出状況、学習カードの記述内容等		

第2学年	教科名【保健体育】	担当	横山・吉川・佐藤	
授業の受け方と学習の進め方				
○チャイムとともに学習開始。チャイム前に整列を完了している。				
○服装を整える。体育着、ハーフパンツ 体育着をハーフパンツに入れる。				
ジャージ 袖から手を出す。				
○授業の準備は確実に。体育実技、ファイル、筆記用具など、忘れ物をしない。				
○ケガをしない、させないように安全に気をつける。				
○人の話は一度で聴く。話を聴くとき、活動するときなど、けじめをつける。				
単元名	履修	学習内容	学期	時数
体づくり運動	必修	体ほぐしの運動 体力を高める運動	1/2/3学期	11
器械運動	必修	跳び箱運動・マット運動	2学期	12
陸上競技	必修	長距離走	2学期	9
水泳	必修	クロール・平泳ぎ	1学期	12
球技Ⅰ	必修	サッカー	2学期	12
球技Ⅱ	必修	卓球	3学期	12
ダンス	必修	現代的なリズムダンス	2学期	14
体育理論	必修	運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行動	1/2/3学期	3
保健	必修	傷害の防止・健康な生活と疾病の予防	1/2/3学期	20
※時数は目安です。				
評価の観点と評価規準				
観点		A	B	C
知識及び技能	技能	単元によって、異なります		
	知識	・ポイント、課題、解決方法などを、正しく理解できている。	・各運動の特性や成り立ちを理解している ・技能の名称やポイントを理解している ・関連して高まる体力や健康・安全についての留意点を理解している	・していない ・していない ・していない
思考力、判断力、表現力等		・ポイント、課題、解決方法などが具体的に書かれている	・運動の技能ポイントを理解している ・自分の課題を理解している。 ・課題解決の方法を選択したり、工夫したりしている	・していない ・していない ・していない
主体的に学習に取り組む態度		・自分から進んで ・声をかけて ・積極的に ・仲間に助言できる ・仲間に協力できる ・声をかけ合いながら ・課題を見つけて ・積極的に ・できるまで	・授業の約束事を守る ・準備や後片付けをする ・集合や整列を素早くする ・審判や得点、記録などの役割を果たす ・仲間が失敗しても文句を言わない ・仲間に積極的に声をかける ・どんなときもフェアプレーを通す ・課題に積極的に取り組む ・精一杯、活動する ・粘り強く課題に取り組む	・守らない ・～しない ・～が遅い ・～しない ・～を言う ・～をかけない ・～をしない ・できない ・できない ・できない
評価の方法				
1 知識及び技能		授業中の活動の観察、学習のまとめの際の記録、教科内テストの結果、学習カードの記述内容等		
2 思考力、判断力、表現力等		学習カードの記述内容、授業中の行動、発言等の観察		
3 主体的に学習に取り組む態度		活動中の行動等の観察、参加状況、課題の提出状況、学習カードの記述内容等		

第3学年	教科名【保健体育】	担当	横山・吉川・佐藤	
授業の受け方と学習の進め方				
○チャイムとともに学習開始。チャイム前に整列を完了している。				
○服装を整える。体育着、ハーフパンツ 体育着をハーフパンツに入れる。 ジャージ 袖から手を出す。				
○授業の準備は確実に。体育実技、ファイル、筆記用具など、忘れ物をしない。				
○ケガをしない、させないように安全に気をつける。				
○人の話は一度で聴く。話を聴くとき、活動するときなど、けじめをつける。				
単元名	履修	学習内容	学期	時数
体づくり運動	必・共	体ほぐしの運動 体力を高める運動	1/2/3学期	14
陸上競技Ⅰ	必・共	短距離走・リレー	1学期	2
陸上競技Ⅱ	必・共	走り幅跳び 走り高跳び	1学期	2
水泳	必・共	クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライ・リレー	1学期	9
球技Ⅰ	必・共	ハンドボール	1学期	12
球技Ⅱ	必・共	サッカー	2学期	10
球技Ⅲ	必・共	卓球	3学期	12
陸上競技Ⅲ	必・共	長距離走	2学期	10
ダンス	必・共	現代的なリズムダンス	2学期	10
体育理論	必・共	文化としてのスポーツの意義	1/2/3学期	3
保健	必・共	健康と環境・健康な生活と疾病の予防	1/2/3学期	21
※時数は目安です。				
評価の観点と評価規準				
観点		A	B	C
知識及び技能	技能	単元によって、異なります		
	知識	・ポイント、課題、解決方法などを、正しく理解できている。	・各運動の特性や成り立ちを理解している ・技能の名称やポイントを理解している ・関連して高まる体力や健康・安全についての留意点を理解している	・していない ・していない ・していない
思考力、判断力、表現力等		・ポイント、課題、解決方法などが具体的に書かれている	・運動の技能ポイントを理解している ・自分の課題を理解している。 ・課題解決の方法を選択したり、工夫したりしている	・していない ・していない ・していない
主体的に学習に取り組む態度		・自分から進んで ・声をかけて ・積極的に ・仲間に助言できる ・仲間に協力できる ・声をかけ合いながら ・課題を見つけて ・積極的に ・できるまで	・授業の約束事を守る ・準備や後片付けをする ・集合や整列を素早くする ・審判や得点、記録などの役割を果たす ・仲間が失敗しても文句を言わない ・仲間に積極的に声をかける ・どんなときもフェアプレーを通す ・課題に積極的に取り組む ・精一杯、活動する ・粘り強く課題に取り組む	・守らない ・～しない ・～が遅い ・～しない ・～を言う ・～をかけない ・～をしない ・できない ・できない ・できない
評価の方法				
1 知識及び技能		授業中の活動の観察、学習のまとめの際の記録、教科内テストの結果、学習カードの記述内容等		
2 思考力、判断力、表現力等		学習カードの記述内容、授業中の行動、発言等の観察		
3 主体的に学習に取り組む態度		活動中の行動等の観察、参加状況、課題の提出状況、学習カードの記述内容等		

<教科の目標>

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- （１）生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- （２）生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
- （３）よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

<技術分野の目標>

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

- （１）生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- （２）生活や社会のから技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、施策等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- （３）よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

<授業の受け方と学習の進め方>

ものづくりの学習では、作業学習が中心になるので、授業毎に必ず学習（授業）内容の確認と使用する工具や機械の使い方、安全についての説明を行います。その後各自の作業に入りますが、常に作業の安全にも心がけ、「ここの加工はどうしたらよいだろうか。この工具はどうしたら安全に上手に使えるか。製作するだけでなく、使用するときや廃棄するとき、事故等による緊急のときに、安全に使用できるか。」など、課題意識をもって授業を進められるように心がけましょう。情報の授業では、プログラミング学習からの制御関係やプライバシーや個人情報、著作権の保護やコンピュータウィルスの感染を防ぐなど安全性を確保し、ネットワークやコンピュータを上手に活用しましょう。

評価の観点と方法 ※３観点により評価されます**『知識・技能』**

- ・生活との係わりについての基礎的な事項や作業についてなぜそうするかを説明できる力や、それを実生活の中に生かすことができる力
- ・生活に必要な基礎的技術を実践できる力
- ・自己評価から次の自己課題を見付け、作品をていねいにきちんと製作していく力

（評価の方法）

- ・授業での発言や、プリントの記載内容・学習の記録カードの記載内容・テスト等への記入状況・製作時の取り組み状況・製作時に技能を身に付けている状況 等

『思考・判断・表現』

- ・課題解決のため、自分なりに工夫しながら取り組み改善点を見付けることができる力
- ・より良い作品づくりのために工夫するなど、効率よく作業することができる力

（評価の方法）

- ・授業での発言やプリントへの記載内容・作品製作時の取り組み状況・テスト等への記入状況 等

『主体的に学習に取り組む態度』

- ・意欲をもって授業に取り組み、積極的に課題解決を行い、計画的にプリントや作品を提出できる力、学んだことを家庭生活に応用する力

（評価の方法）

- ・発言内容やまとめ発表の内容、ワーク、ノート、プリント、学習記録カード等の記述内容・課題、作品等の取り組み内容 等

技術分野：1年生の年間の授業計画と主な学習のねらい		
学期	学習内容（単元名）	主な学習のねらい
1 学期	1 生活や産業の中で 利用されている技術 ・ものをつくる技術 ・技術と環境、エネルギーと資源	・技術と環境、エネルギー、資源の関係について理解する。 ・使用目的に即して製作品の機能と構造を考える。 ・材料の特徴と利用方法を考える。 ・構想の表示方法を知り、製作に必要な図をかける。 ・製作の使用材料に適した加工法を考える。 ・工具や機械を安全に用いて正確に作業ができる。 ・製作品の発表会を行い、相互に評価する。 ・ものづくりの学習のまとめを行う。 ・他の人の作品評価と製作レポートの作成
2 学期	2 製作品の設計『物を収納するもの』 ・機能と構造 ・材料と加工法 ・構造図と設計	
3 学期	3 製作学習 ・材料に適した加工法 ・各種工具の仕組みと使用方法	
	4 作品の発表と評価	

技術分野：2年生の年間の授業計画と主な学習のねらい		
学期	学習内容（単元名）	主な学習のねらい
1 学期	1 生活や産業の中で 利用されている技術 ・ものをつくる技術 ・技術と環境、エネルギーと資源	・技術と環境、エネルギー、資源の関係について理解する。 ・使用目的に即して製作品の機能と構造を考える。 ・材料の特徴と利用方法を考える。 ・構想の表示方法を知り、製作に必要な図をかける。 ・製作の使用材料に適した加工法を考える。 ・工具や機械を安全に用いて正確に作業ができる。 ・製作品の発表会を行い、相互に評価する。 ・ものづくりの学習のまとめを行う。 ・他の人の作品評価と製作レポートの作成
2 学期	2 製作品の設計『電気スタンド』 ・機能と構造 ・材料と加工法 ・構造図と設計	
3 学期	3 製作学習 ・材料に適した加工法 ・各種工具の仕組みと使用方法	
	4 作品の発表と評価	

技術分野：3年生の年間の授業計画と主な学習のねらい		
学期	学習内容（単元名）	主な学習のねらい
1 学期 2 学期	1 生物を栽培して収穫し様 ・生物の育成に関する条件 ・環境の整備 ・計画的に管理ができる仕組み ・目的にあわせた管理作業 ・社会や環境に果たしている役割と影響 2 デジタル作品の制作 ・メディアの複合 ・作品の発表 ・相互評価	・生物の育成に適する条件を学び、実際の作業に生かせるようにする。 ・作物や環境に適した管理の方法を学び、作物の栽培に生かせるようにする。 ・野菜作りに挑戦することで、収穫の喜びを味わい、生産者と消費者について学ぶ。 ・地域で作られている作物を知る。 ・様々なメディアを複合させ発信者が受信者に対して適切に表現したいことを伝えられるようにする。
3 学期	3 身近な計測・制御を学ぶ ・モノとヒトをつなぐ ・情報処理の手順 ・センサ、コンピュータ、アクチュエータ ・プログラム作成	・身の回りにある機器が、どのように計測・制御して我々の生活に生かされているのかを学び、仕組みを知る。 ・様々な要素や回路構成、プログラムなどを学び、計測・制御の目的を知り、今後の生活に活用できるようにする。

大宮西中学校 第1学年 教科名「技術・家庭科(家庭分野)」 担当教諭:福田比呂恵

技術・家庭科では次のような生徒の目標を設定し、学習指導を行っています。
そして、生徒個々の身についた能力を次の3つの観点をもとに、評価・評価をします。

評価・評価の3観点

- ① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度

授業や評価テストなどでは、主に単元ごとに3つの観点の評価を行っていきませんが、その評価と方法については次のように考えています。

- ① 知識・技能
家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解や、それらに係る技能の習得状況を評価する観点です。(学習カード、授業プリント、ペーパーテスト等)
- ② 思考・判断・表現
家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望した課題を解決する力が身に付いているかを評価する観点です。(授業における取り組み状況、発言、作品、授業プリント等)
- ③ 主体的に学習に取り組む態度
意欲をもち、積極的に授業に取り組み、学びの経験を通して得たことを土台に、生活を工夫・創造し、実践しようとする態度について評価する観点です。(授業における取り組み状況、発言、学習記録カード等)

第1学年 技術・家庭科(家庭分野) 指導計画

1 学 期	2 学 期	3 学 期
<家庭分野ガイダンス> <家族・家庭生活> 1. 今の自分とこれから 2. 家庭のはたらきと家庭の仕事 3. 様々な家族・家庭 <食生活> 1. 日常食の調理と地域の食文化	<衣生活> 1. 布を用いた作品で生活を演出	<住生活> 1. 人間にとっての住まい 2. 生活に必要な住空間 3. 自然とともにある住生活 4. 安全で健康的な住生活 5. 持続可能な住生活 ○防災

技術・家庭科では次のような生徒の目標を設定し、学習指導を行っています。
そして、生徒個々の身についた能力を次の3つの観点をもとに、評価・評定をします。

評価・評定の3観点

- ① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度

授業や評価テストなどでは、主に単元ごとに3つの観点の評価を行っていますが、その評価と方法については次のように考えています。

- ① 知識・技能
家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解や、それらに係る技能の習得状況を評価する観点です。（学習カード、授業プリント、ペーパーテスト等）
- ② 思考・判断・表現
家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望した課題を解決する力が身に付いているかを評価する観点です。（授業における取り組み状況、発言、作品、授業プリント等）
- ③ 主体的に学習に取り組む態度
意欲をもち、積極的に授業に取り組み、学びの経験を通して得たことを土台に、生活を工夫・創造し、実践しようとする態度について評価する観点です。（授業における取り組み状況、発言、学習記録カード等）

第2学年 技術・家庭科（家庭分野）指導計画

1 学 期	2 学 期	3 学 期
＜食生活＞ 1. 人間にとっての食事 2. 食品と栄養素 3. 中学生に必要な食事 4. 日常食の調理と地域の食文化 5. 献立づくり	＜食生活＞ 1. 調理実習 2. 持続可能な食生活 ＜消費生活・環境＞ 1. 家庭生活と消費 2. 購入・支払いと生活情報	＜消費生活・環境＞ 3. 消費者被害と消費者の自立 4. 持続可能な社会に向けて ○生活の課題と実践

技術・家庭科では次のような生徒の目標を設定し、学習指導を行っています。
そして、生徒個々の身についた能力を次の3つの観点をもとに、評価・評定をします。

評価・評定の3観点

- ① 知識・技能 ② 思考・判断・表現 ③ 主体的に学習に取り組む態度

授業や評価テストなどでは、主に单元ごとに3つの観点の評価を行っていきませんが、その評価と方法については次のように考えています。

- ① 知識・技能
家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解や、それらに係る技能の習得状況を評価する観点です。（学習カード、授業プリント、ペーパーテスト等）
- ② 思考・判断・表現
家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望した課題を解決する力が身に付いているかを評価する観点です。（授業における取り組み状況、発言、作品、授業プリント等）
- ③ 主体的に学習に取り組む態度
意欲をもち、積極的に授業に取り組み、学びの経験を通して得たことを土台に、生活を工夫・創造し、実践しようとする態度について評価する観点です。（授業における取り組み状況、発言、学習記録カード等）

第3学年 技術・家庭科（家庭分野）指導計画

1 学 期	2 学 期	3 学 期
＜家族・家庭と子どもの成長＞ ・私の成長のあしあとと周囲の人々 ・幼児の体の発達 ・幼児の心の発達 ・幼児の遊び ・遊びを支える環境 ＜夏休みの課題＞ ・手作りおもちゃ計画 ・対象年齢に合った絵本選び	＜家族・家庭と子どもの成長＞ ・遊び道具を作ってみよう ・幼児と触れ合おう (赤ちゃん・幼児触れ合い体験)	＜家族・家庭と子どもの成長＞ ・子どもの成長と地域 ・高齢者とのかかわり ・持続可能な家庭生活

第1学年 教科名「グローバル・スタディ」 担当（ 松沢 望羽 ）		
授業の受け方と学習の進め方		
1. 授業前は、①予習をして授業に臨む。※新出単語・教科書の本文をノートに書き写し、単語の意味を調べておく。 2. 授業中は、①単元や本時の目標達成に向け、教師の説明や仲間の発言を真剣に聞き、わからないことは質問する。 ②間違いを恐れず、自分の考えを伝えたり、積極的にコミュニケーション活動に取り組んだりする。 3. 授業後は、①学習理解に応じて必要な学習調整（復習）を行う。※音読、ワーク、スタディサプリでの補充学習を行う。		
年間の授業計画と主な学習のねらい		
1 学期	Get Ready	・好きなものやできることなどについて伝えたり、質問に答えたりすることができる。
	Get Ready	・アルファベットの大文字・小文字、つづり字と発音の関係の理解をもとに、単語を正確に聞いたり書いたりすることができる。
	Get Ready	・自分について相手にわかってもらえるように、自分のことについて書くことができる。
	Get Ready	・基本的な英語の単語や文の書き方の理解をもとに、英文を書くことができる。
	Program 1	・相手のことについて知りたいことを質問したり、その質問に適切に答えたりすることができる。
	Step 1	・伝えたい内容を上手に発表することができる。
	Program 2	・相手の情報を得るための質問をしたり、その質問に答えたりすることができる。
	Action Corner	・命令文の意味や働きの理解をもとに、しなければいけないことやしてはいけないことを聞き取ったり伝え合ったりすることができる。
	Program 3	・ALTの先生やクラスメイトに自分のオリジナルキャラクターをアピールするために、特徴やできること、得意なことなどについて、発表することができる。
	Step 2	・マッピングの使い方の理解をもとに、内容を整理して話すことができる。
	Our Project 1	・自分の考えや気持ちなどを整理し、簡単な語句や文などを用いて自己紹介のスピーチをしたり、自己紹介の英文を書いたりすることができる。
	Power-Up 1	・飲食店で注文するために、簡単な語句や文などを用いて、自分が食べたいものやその金額などを伝え合うことができる。
2 学期	PROGRAM 4	・日本の特徴的なものや人について、事実や経験をもとにしながら紹介することができる。
	PROGRAM 5	・中学校の先生や学校行事等について、事実をもとに紹介することができる。
	Power-Up 2	・簡単な語句や文などを用いて、自分や相手の持ち物について伝え合うことができる。
	PROGRAM 6	・〇〇（アニメや漫画名）の登場人物などについて質問したり、相手からの質問に答えたりすることができる。
	Step 3	・相手にわかりやすい話の組み立て方の理解をもとに、論理立ててスピーチ原稿を書くことができる。
	PROGRAM 7	・海外の人にさいたま市や日本について興味をもってもらうために、おすすめスポットや行事などについて発表することができる。
	疑問詞のまとめ	・さまざまな疑問詞の意味や働きの理解をもとに、質問したり答えたりすることができる。
	Power-Up 3	・相手が行きたい場所や行き方などを伝え合うことができる。
	Step 4	・発表者が気持ちよく話せる聞き方で聞くことができる。
	Our Project 2	・自分の考えや気持ちなどを整理し、簡単な語句や文などを用いて伝えたり、書いたりすることができる。
3 学期	PROGRAM 8	・〇〇（国名）の祭りについて調べたことをもとに簡単に紹介したり、聞き手からの質問に適切に答えたりすることができる。
	Power-Up 4	・自分が欲しいものやおすすめの商品、値段などについて聞き取ったり、伝え合ったりすることができる。
	PROGRAM 9	・相手のメールから必要な情報を読み取り、自分の考えや気持ちなどが伝わるように返事を書くことができる。
	Step 5	・話したい内容を簡潔にメモにまとめ、発表することができる。
	Power-Up 5	・誕生日や日本での経験をたずねたり、聞き取ったりすることができる。
	Our Project 3	・話す内容や順番を考え、スピーチ原稿を書いたり、発表したりすることができる。
	PROGRAM 10	・事実や経験、自分の考えなどを整理して発表したり、その発表を聞いて概要を適切に捉えたりすることができる。
	Step 6	・ある絵や写真についての説明をすることができる。
3 学期	Power-Up 6	・絵はがきの内容を読み取ったり書いたりすることができる。
	Reading Steps	・自分の考えや知りたいことなどを表現することができる。
評価の観点と評価方法		
1 知識・技能： 定期テスト、ワークシート、小テストなど【聞くこと・読むこと・書くこと】 パフォーマンステスト、プレゼンテーション、授業中のコミュニケーション活動【話すこと<やり取り・発表>】 2 思考・判断・表現： 定期テスト、ワークシート、小テストなど【聞くこと・読むこと・書くこと】 パフォーマンステスト、プレゼンテーション、授業中のコミュニケーション活動【話すこと<やり取り・発表>】 3 主体的に学習に取り組む態度： 授業中の発言、コミュニケーション活動や宿題への取り組み、学習の振り返り（自己評価）とそれに沿った調整学習への取り組みなど。【聞くこと・読むこと・話すこと<発表・やり取り>・書くこと】		

第2学年 教科名「グローバル・スタディ」		担当（ 関口 賢 ）
授業の受け方と学習の進め方		
1. 授業前は、①予習をして授業に臨む。※新出単語・教科書の本文をノートに書き写し、単語の意味を調べておく。 2. 授業中は、①単元や本時の目標達成に向け、教師の説明や仲間の発言を真剣に聞き、わからないことは質問する。 ②間違いを恐れず、自分の考えを伝えたり、積極的にコミュニケーション活動に取り組む。 3. 授業後は、①学習理解に応じて必要な学習調整（復習）を行う。※音読、ワーク、スタディサブリでの補充学習を行う。		
年間の授業計画と主な学習のねらい		
1 学 期	1年生の復習	1年生で学習したことを振り返り、クラスメートと仲間づくりをすることができる。
	Program 1	未来表現や動名詞を用いた文の特徴やきまりに関する事項を理解し、「日本らしい体験学習プラン」を、根拠を持って論理的に伝える。
	Step1	言い方がわからない単語を自分が知っている表現を使って説明する方法を理解し、伝える。
	Program 2	接続詞 if や when の文の特徴やきまりを理解し、「海外からの留学生に提案するスポーツ」について伝え合う技能を身に付ける。
	Power-Up 1	天気予報の理解に必要な表現・語彙を理解する。
	Step2	おすすめのものの魅力について、効果的な伝え方を理解し、伝える技能を身に付ける。
	Program 3	to 不定詞の文の特徴やきまりを理解し、「世界屋台フードフェスティバル」に出す料理の特色や魅力を伝え合う技能を身に付ける。
	Our Project 4	既習の言語材料の意味や働きの理解をもとに、「ラーメンの魅力を伝える」プレゼンテーションを行う技能を身に付ける。
	Reading 1	ストーリーの概要を捉えるために必要な言語材料を理解し、「おすすめのストーリー」について紹介する技能を身に付ける。
	Power-Up 2	電話で用いる英語の表現を理解し、伝えたい情報や考え、気持ちなどについてやりとりする技能を身に付ける。
2 学 期	Program 4	must, mustn' t, (don' t have to～を用いた文の意味や働きの理解し、「身近な環境問題」について伝える技能を身に付ける。
	Power-Up 3	レストランで注文する際の表現を理解し、店員と客役に分かれてやり取りをする技能を身に付ける。
	Step3	パンフレットやポスターにわかりやすい見出しをつける具体的な方法を理解し、表現する技能を身に付ける。
	Program 5	疑問詞＋不定詞、look＋形容詞、SVOO の文の特徴やきまりを理解し、「職業体験」について書く技能を身に付ける。
	Program 6	いろいろなものを比較する表現の特徴やきまりを理解し、「環境問題への取組」について自分の意見を話す技能を身に付ける。
	Power-Up 4	メール文で使う表現を理解し、受信したメールの概要を読み取り、返事を書く技能を身に付ける。
	Step4	わかりやすい説明に必要な要素や、説明する順序を理解し、簡単な語句や文を用いて、相手に伝える技能を身に付ける。
	Our Project 5	既習の言語材料の意味や働きの理解をもとに、「日本のおすすめスポット」について書く技能を身に付ける。
	Reading 2	話の要点を正確に読み取るために必要な語句や表現を理解し、物語の内容や自分の考えを簡単な語句や文を用いて書く技能を身に付ける。
	Program 7	比較級・最上級（like-better/the best）の文のきまりや特徴について理解し、おすすめの場所の特徴や魅力を伝え合う技能を身に付ける。
3 学 期	Program 8	be 動詞＋過去分詞の受け身の文の特徴やきまりを理解し、「世界遺産」について情報を整理して話す技能を身に付ける。
	Power-Up 5	飛行機のアナウンスに使われている表現を理解し、情報を聞き取る技能を身に付ける。
	Step5	説得力のある主張の仕方を理解し、設定されたテーマについて説得力ある理由を入れて自分の意見を主張する技能を身に付ける。
	Our Project 6	既習の言語材料の意味や働きの理解をもとに、「自分が尊敬する人物」についてのスピーチ原稿を書く技能を身に付ける。
	Reading 3	内容を正確に理解するために必要な語句や表現、文法事項を理解し、「地元にまつわる話」を読んで紹介文を書く技能を身に付ける。
Reading Steps		既習の言語材料の理解をもとに、物語や説明文などを読んで、自分の考えや知りたいことなどを表現する技能を身に付ける。
評価の観点と評価方法		
1 知識・技能： 定期テスト、ワークシート、小テストなど【聞くこと・読むこと・書くこと】 パフォーマンステスト、プレゼンテーション、授業中のコミュニケーション活動【話すこと<やり取り・発表>】 2 思考・判断・表現： 定期テスト、ワークシート、小テストなど【聞くこと・読むこと・書くこと】 パフォーマンステスト、プレゼンテーション、授業中のコミュニケーション活動【話すこと<やり取り・発表>】 3 主体的に学習に取り組む態度： 授業中の発言、コミュニケーション活動や宿題への取り組み、学習の振り返り（自己評価）とそれに沿った調整学習への取り組みなど。【聞くこと・読むこと・話すこと<発表・やり取り>・書くこと】		

第3学年 教科名「グローバル・スタディ」		担当（ 岡崎 明美 ）
授業の受け方と学習の進め方		
1. 授業前は、①予習をして授業に臨む。※新出単語・教科書の本文をノートに書き写し、単語の意味を調べておく。 2. 授業中は、①単元や本時の目標達成に向け、教師の説明や仲間の発言を真剣に聞き、わからないことは質問する。 ②間違いを恐れず、自分の考えを伝えたり、積極的にコミュニケーション活動に取り組む。 3. 授業後は、①学習理解に応じて必要な学習調整（復習）を行う。※音読、ワーク、スタディサプリでの補充学習を行う。		
年間の授業計画と主な学習のねらい		
1 学 期	Program 1 Japanese <i>Bentos</i> Are Interesting!	ask/want ~to 不定詞、It-for...to 不定詞、現在完了形（経験）の用法を理解し、日本の学校文化を紹介し、やりとりする。【聞くこと】【話すこと（発表）】
	Program 2 Good Night. Sleep Tight.	現在完了形（完了・継続）の用法を理解し、調査内容を整理し、事実に基づいた説得力のあるおすすめの健康法を紹介する。【読むこと】【話すこと（発表）】
	Steps 1 聞き上手になろう	話題を広げるための質問やコメントの仕方について知る。【話すこと（やり取り）】
	Program 3 A Hot Sport Today	主語＋動詞＋目的語＋補語（動詞の原形）の用法を理解し、次の新しいオリンピック種目を、調査資料を基に提案理由を論理的にまとめ、提案する。【話すこと（やり取り）】
	Power-Up 1 電車の乗り換え案内をしよう	路線図を見ながら、たずねられた目的地への道案内（電車の乗りかえ）をすることができる。【話すこと（やり取り）】
	Steps 2 ポスターセッションの流れを理解しよう	ポスターセッションの流れを理解する。【話すこと（やり取り）】
	Our Project 7 パラスポーツについて理解を深めよう	ポスターセッションを行う。【話すこと（やり取り）】
	Reading 1 The Meaning of Life	話の要点を読み取り、自分の考えを書く。【読むこと】【書くこと】
2 学 期	Steps 3 ディスカッションの流れを確認しよう	ディスカッションの流れを確認し、ミニディスカッションを行う。【話すこと（やり取り）】
	Program 4 Sign Languages, Not Just Gestures!	現在分詞や過去分詞（後置修飾）、間接疑問文の用法を理解し、ユニバーサル・デザインの道具や施設を紹介する。【話すこと（やり取り）】
	Program 5 The Story of Chocolate	関係代名詞（主格）の用法を理解し、「おやつタイム」について調査や分析の結果を整理して、論理的に考えを伝えたり、相手の質問に的確にこたえる。【話すこと（やり取り）】
	Power-Up 2 ポスターから情報を読み取ろう	ポスターから読み取った情報の内容を伝え合う。【話すこと（発表）】
	Steps 4 ディスカッションで使う表現をおさえよう	ディスカッションで使う表現を確認し、ミニディスカッションを行う。【話すこと（やり取り）】
	Program 6 The Great Pacific Garbage Patch	関係代名詞（目的格）の用法を理解し、環境問題への学校の取り組みを、ディベートにより決定する。【話すこと（やり取り）】
	Our Project 8 レストランにSDGsの取り組みを提案しよう	レストランに合ったSDGsの取り組みを提案するためのディスカッションを行う。【書くこと】【話すこと（やり取り）】
	Power-Up 3 ラジオのCMを聞こう	ラジオの情報を聞き、聞き取った表現を活用し商品をすすめる。【話すこと（発表）】
	Program 7 Robots Can Improve Quality of Life	仮定法過去の用法を理解し、「もし自分が〇〇なら、何をするか」即興で自分の考えや理由を話したり、書いたりできる。【話すこと（発表）】【書くこと】
	Power-Up 4 ウェブサイトで学校を紹介しよう	ウェブサイトの構成を知り、紹介文を書く。【書くこと】
3 学 期	Reading 2 Malala's Voice for the Future	有名人の実話を読み、内容を要約し、自分の考え入れて伝える。【読むこと】【書くこと】
	Special Project 中学校の思い出を残そう	中学校の思い出について紹介することができる。【話すこと（発表）】【書くこと】
	Further Reading 1 A Birthday Present	物語を読んで概要を理解する。【読むこと】
	Further Reading 2 The Ig Nobel Prize	物語を読んで概要を理解する。【読むこと】
	Further Reading 3 Nakamura Tetsu	中村哲さんの実践を読み、国際協力の大切さを読み取る。【読むこと】
評価の観点と評価方法		
1 知識・技能： 定期テスト、休み明けテスト、ワークシート、小テストなど【聞くこと・読むこと・書くこと】 パフォーマンステスト、プレゼンテーション、授業中のコミュニケーション活動【話すこと・やり取り・発表】 2 思考・判断・表現： 定期テスト、休み明けテスト、ワークシート、小テストなど【聞くこと・読むこと・書くこと】 パフォーマンステスト、プレゼンテーション、授業中のコミュニケーション活動【話すこと・やり取り・発表】 3 主体的に学習に取り組む態度： 授業中の発言、コミュニケーション活動や宿題への取り組み、学習の振り返り（自己評価）とそれに沿った主体的学習への取り組みなど。【聞くこと・読むこと・話すこと・発表・やり取り・書くこと】		

令和7年度 特別支援学級（8組）の教育（シラバス）

さいたま市立大宮西中学校

1 教育目標 「幅広い経験と学習を通して、たくましく生きる力を育てる」

(1) 指導の重点

- ① 自立的な生活を築くために必要な習慣や態度を育てる。
- ② 体力の向上を推進する。
- ③ 基礎学力の向上を図り、将来の就労生活に必要な技能を育てる。
- ④ 生徒の個性を伸ばす進路決定を支援する。
- ⑤ 学校・学級行事を通して様々な体験を積み重ね、生きる力や豊かな心を育てる。

(2) 生徒の目標

- ① 一人のできる
- ② たくましい心と体をつくる
- ③ はたらく力をつみあげる

2 認可された学級編制

学級の正式名称	校内の通称	1年		2年		3年		合計			担任名
		男	女	男	女	男	女	男	女	計	
知的障害 特別支援学級	8組B	2	0	0	0	0	0	2	0	2	川島 美由紀
自閉症・情緒障害 特別支援学級	8組A	2	0	2	1	1	0	5	1	6	岡崎 桂太
		4	0	2	1	1	0	8	1	8	
		4		3		1		8			

3 授業時数

(1) 知的障害特別支援学級の授業時数

国語	数学	理科	社会	体育	美術	G・S	音楽	職業	職業・家庭
70	70	35	35	140	70	35	35	35	70
自立活動		生活単元学習		作業学習		総合的な学習の時間		合計	
35		155		175		70		1030	

(2) 自閉症・情緒障害特別支援学級の授業時数

国語	数学	理科	社会	体育	美術	G・S	音楽	職業	職業・家庭
70	70	35	35	140	70	35	35	35	35
自立活動		生活単元学習		作業学習		総合的な学習の時間		合計	
140		155		105		70		1030	

- ・国語と数学は、能力別の指導を実施する。
- ・作業学習は、「農園芸」「手芸」「木工」の作業種を実施する。
- ・生活単元学習は、単元の内容により、「学級」「学年」「合同」などの集団を構成し、実施する。
- ・「特別の教科道徳」「特別活動」の内容は、各教科等を合わせた指導の中で取扱う。

4 交流及び共同学習に関する目標

① 特別支援学級の生徒のねらい

- ・多様な集団の中で、その場にふさわしい態度や社会性を身に付ける。
- ・他者からの支援に対して、素直に感謝の気持ちを表現できるなど、協調性を身に付ける。
- ・もてる力を最大限発揮しようとする意欲を身に付けるとともに、支援が必要な時は、自発的に支援を求めることができる。

② 通常の学級の生徒のねらい

- ・障害のある生徒に対しての正しい理解を深める。
- ・人のよいところを認め、互いにかかわり合いながら生きる大切さを学ぶ。
- ・障害のある人に対して、主体的に支援しようとする態度を身に付ける。

5 授業について

科 目	学習内容等
国語	生徒個々の能力に応じて、日常生活に必要な国語力を身につける。平仮名、片仮名、漢字、文章の理解、生活文の綴り方、辞書の使い方、聞くこと・話すことなどの学習を行う。課題別にグループで学習する。
数学	生徒個々の能力に応じて、日常生活に必要な数学力を身につける。数の概念、四則計算、時刻と時間、金銭実務、表とグラフ、さまざまな単位などの学習を行う。課題別にグループで学習する。
理科	生活上のさまざまな現象について実験・観察等を通して学んでいく。
社会	歴史では過去の人物について調べたり、地理では日本の都道府県、世界の国についての学習を行う。
音楽	歌唱と合奏を主に学習する。歌唱は、校歌、季節や行事に関連する曲を中心に学習する。合奏は、打楽器を中心に学習する。
体育	集団行動、ラジオ体操、体作り運動、短距離走、長距離走、卓球、バドミントンビーチボールバレー、水泳、バスケットボール、サッカー、剣道、ボッチャを中心に学習する。
美術	色鉛筆、水彩絵の具、ポスターカラー等を使用した絵画、陶芸等の学習を行う。
職業・家庭	生活に役立つ小物作り。衣食住について学習をする。
G・S	挨拶や日常生活で使用する単語や話し方の学習を行う。
生活単元 学習	季節や行事などの生活上の課題を単元化して学習する。「新しい生活」「校外学習に行こう」「進路と生活」「健康な生活」「文化発表会を成功させよう」「未来くるワークをがんばろう」「小中合同交流会を開催しよう」「作品展を成功させよう」などの単元を実施する。
作業学習	農園芸では、夏野菜やヨーロッパ野菜の種まきから収穫まで行う。手工芸では、切り絵等の紙工芸や刺し子等の手芸品を製作する。木工では木材を使用した製品を作る。特別支援学校選抜テストに向けた、学習を合わせて行う。
学年生活	学年ごとに進路学習、受験対策、調べ学習（壁新聞作り）、卒業記念品作り等に取り組む。
総合的な 学習	校外学習、宿泊学習、スキー合宿、修学旅行の目的地に関連する調べ学習、進路先に関する調べ学習を実施し、調べ方、パソコンの活用、まとめ方、発表の仕方を学習する。

6 評価について

各学期に、学習した内容と個人の到達度について、文章の記述による評価を実施する。

7 学級行事

新入生歓迎会 校外学習 交流ビーチボールバレー 小中合同交流会 書初め大会 合同作品展
三年生を送る会

※儀式的行事、体育祭、文化発表会、修学旅行、合唱コンクール、自然の教室、三年生を送る会等には、交流学級または8組・生活部として参加する。

※各学年行事は通常学級に同行し参加する。校外学習（1年）、未来くるワーク体験（2年）、自然の教室（2年）、管弦楽教室（2年）、修学旅行（3年）、小・中合同音楽会（3年）、プラネタリウム学習（3年）

学 習 に つ い て

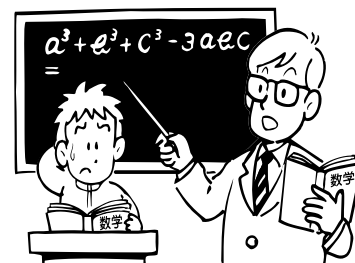
～千里の道も一歩から～

1. 意欲的に、真剣に取り組む

勉強は強制的にやって身に付くものではありません。では意欲的に進めるためにはどうしたらいいのでしょうか。

それは「なりたい自分」を思い描くことです。「英語が話せるようになりたいな」「数学の難しい問題を解いて、みんなに『すごい』って言われたいな」「漢字をたくさん覚えるぞ」などなど、できるだけ具体的に目標を立ててみましょう。

授業は、そんな皆さんの「なりたい自分」に近づくための、大切な時間です。真剣に取り組みましょう。



授業に真剣に取り組むために

一人ひとりに守って欲しい12項目

1. チャイムの前には席に着き、授業の道具は机の上に用意しておこう。
2. 授業の最初と最後の号令・あいさつはしっかりしよう。
3. 忘れ物をしないように気を付けよう。(忘れた場合は先生に申し出ること)
4. ノートはきちんととろう。
5. 授業中の私語はつつしもう。
6. 他の人の発言や考えを尊重しよう。
7. 発言は言葉づかいをていねいに、大きくはっきりとした声でしよう。
8. 授業をよく聞いて、すすんで手を挙げよう。
9. 服装や姿勢をきちんと整えて授業に臨もう。
10. 授業で配られたプリントなどは、しっかりと保管しよう。
11. 教室を移動はすばやく、休み時間のうちにすませよう。
12. 授業が始まってから教室に入るときは、必ず担当の先生に理由を報告しよう。

2. 家でも勉強する習慣をつける

残念ながら、人間は忘れる生き物です。せっかく「なりたい自分」が決まっても、学校の授業だけではなかなかその目標は達成できません。そこで家に帰ってからの学習が大切になってきます。家に帰ったらまず、その日に書いたノートを見直すなど、授業の復習をしましょう。



ずっと勉強していると、誰でも嫌になってしまうものです。無理のない計画を立て、気分転換をしながら、毎日少しずつやっていきましょう。

評価及び評定について

1 評価及び評定のつけ方

授業者が観点別学習状況（ABC）を基に評定（5～1）を算出し、通知票等に記載します。

（1）観点別学習状況（いわゆる観点別評価と呼ばれるもの）

学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、次のように区分してその達成状況を観点ごとに評価します。

『十分満足できる』状況と判断されるもの	：	A
『おおむね満足できる』状況と判断されるもの	：	B
『努力を要する』状況と判断されるもの	：	C

◎**観点**とは、各教科の目標の達成の状況を以下の3項目に分けたものです。

『知識・技能』

各教科等における学習の過程を通じた知識・技能の習得状況を評価

『思考・判断・表現』

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を身に付けているかを評価

『主体的に学習に取り組む態度』

「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかという意思的に粘り強い取組を行おうとする側面、粘り強く取組を行う中で、自らの学習を調整しているかを評価

（2）評定

学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、次のように区分してその達成状況を総括的に評価します。

「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるもの	・・・	5
「十分満足できる」状況と判断されるもの	・・・・・・・・・・	4
「おおむね満足できる」状況と判断されるもの	・・・・・・・・・・	3
「努力を要する」状況と判断されるもの	・・・・・・・・・・	2
「一層努力を要する」状況と判断されるもの	・・・・・・・・・・	1

2 観点別学習状況の評価を評定とする際の原則

観点別学習状況の評価の総括が評定となります。評定は、各観点の評価結果をA, B, Cの組合せによって5段階で表します。観点別評価では「AAA」（全てA）であれば5、「BBB」（全てB）であれば3、「CCC」（全てC）であれば1又は2となります。